



2010年度

新潟大学教育学部 年報

THE FACULTY OF EDUCATION NIIGATA UNIVERSITY

ANNUAL REPORT

目 次

1 イベントカレンダー	
1.1 教育学部	1
1.2 附属学校	2
2 特色ある教育活動	
2.1 教育学部における体験的カリキュラムの概要	4
2.2 「フレンドシップ実習」の概要	6
2.3 「入門教育実習」－1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発	7
2.4 「研究教育実習」－4年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究	9
2.5 「学習支援ボランティア」派遣事業および関連事業	11
2.6 教育実習	12
2.7 介護体験	13
2.8 キャリア・デザインⅠ、Ⅱの開講	15
2.9 インターンシップ	16
2.10 各課程の特色ある教育活動	20
2.11 高校生対象体験講義	32
2.12 中・高校生及び保護者の大学見学	33
3 就職支援	
3.1 教員志望学生向け特別講座	34
3.2 教員採用選考検査対策（体育実技）練習会	35
3.3 公務員志望向けガイダンス	36
3.4 一般企業志望学生向けガイダンス	37
3.5 臨時教員希望者への就職支援	38
3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス（3年次生向け）	39
4 学部 FD・SD	40
5 地域貢献	
5.1 12年研修	42
5.2 市民・教員を対象とした公開講義	43
5.3 教育委員会との連携事業	44
5.4 心のケア	44
5.5 新潟大学免許法認定公開講座	45
5.6 新大なんでもスポーツプロジェクトについて	45
5.7 講演会・演奏会・発表会など	45
5.8 委員等就任状況	46

6 国際交流

6.1 学部教育の国際化事業	49
6.2 学術交流（研究者の派遣・受入れ）	51

7 附属施設の活動

7.1 附属新潟小学校	55
7.2 附属新潟中学校	58
7.3 附属特別支援学校	61
7.4 附属幼稚園	64
7.5 附属長岡小学校	67
7.6 附属長岡中学校	72

8 外部資金

8.1 科学研究費補助金	73
8.2 奨学寄付金	74
8.3 受託研究・受託事業	74
8.4 共同研究	75

9 教育・研究業績

・研究者一覧	76
--------------	----

[巻末資料]

入学状況（学部）	107
入学状況（大学院）	108
就職内定状況	109
附属学校生徒数	110

1 イベントカレンダー

1.1 教育学部

月	日	事 項
4月	5日	新潟大学入学式、学部新生保護者懇談会
	6日	大学院教育学研究科新生ガイダンス
		学部学年別ガイダンス（1年次、3年次）
	7日	学部学年別ガイダンス（2年次、4年次）
	9日	第1学期開始
17日	第51回黎明祭	
6月	1日	新潟大学永年勤続者表彰式
	7日	春期教育実習（～6/18）
	12日	現職教員のための大学院説明会・個別相談会
	22日	新潟大学名誉教授照合授与式
	24日	学部後援会役員会
27日	新潟県職員採用試験	
7月	10日	学部後援会理事会・総会
		新潟市教員採用試験（～7/11）
	11日	新潟県教員採用試験
	23日	第1学期定期試験（～29）
	30日	教職12年経験者研修（～8/23）
31日	全学同窓会と新潟大学との懇談会	
8月	1日	教員免許状更新講習（～8/24）
	5日	免許法認定公開講座（～10/29）
	8日	新潟大学オープンキャンパス（主に受験生向け）（～8/9）
	11日	夏期休業（～9/30）
	17日	学校図書館司書教諭講習（～8/26）
9月	6日	観察参加実習（～10）
	8日	大学院教育学研究科入学試験
	21日	秋期卒業式
	22日	大学院教育学研究科入学試験合格者発表
	30日	全学就職総合ガイダンス
10月	1日	秋期入学式、第2学期開始
	11日	新潟大学 Week（～10/24） ※参加型イベント：五十嵐の森キャンプ場で遊ぼう、 「なんでもスポーツフェスティバル」いろいろなスポーツの体験と交流 展 示 ・ 鑑 賞：西区 DE アート、みゅーじっくろさき2009：最終公演「0才からのコンサート」、 パフォーマンスアート「絆」、ワッ書イ！
		25日
11月	20日	推薦入試（健康スポーツ科学課程、芸術環境創造課程）・社会人特別入試入学試験 養護教諭特別別科入学試験
	22日	首都圏企業・業界学内合同説明会
12月	1日	教育実習運営協議会
	7日	推薦入試（健康スポーツ科学課程、芸術環境創造課程）・社会人特別入試入学試験合格者発表 養護教諭特別別科入学試験合格者発表
		11日
	15日	新潟県教育委員会との教育懇談会
	24日	冬期休業（～1/6）
1月	7日	授業開始
	15日	大学入試センター試験（～1/16）
	20日	教育学部同窓会と教育学部との懇談会・懇親会
	22日	全学同窓会と新潟大学との懇談会・懇親会
	28日	第2学期定期試験（～2/8）
31日	大学院教育学研究科（第2次募集）入学試験	
2月	8日	推薦入試（学校教員養成課程）入学試験合格者発表
	10日	大学院教育学研究科（第2次募集）入学試験合格者発表
	25日	新潟大学入学試験（前期日程）（～26）
3月	8日	新潟大学入学試験（前期日程）合格者発表
	11日	春期休業（～31）
	12日	新潟大学入学試験（後期日程）
	22日	新潟大学入学試験（後期日程）合格者発表 新潟大学教育学部学位記授与式・修了式

1.2 附属学校

《 附属新潟小学校 》

《 附属新潟中学校 》

《 附属特別支援学校 》

月	日	事 項	日	事 項	日	事 項
4	8	着任式、1学期始業式、入学式	8	着任式、1学期始業式	8	新任式 1学期始業式
	15	新1年生対面式	9	入学式	9	入学式
	30	全校参観日	13	新入生歓迎会	10	学級・学部懇談会
			20	全国学力・学習状況調査	16	PTA 総会
			30	授業参観	21	高3修学旅行（～23日）
					23	中学部遠足
					29	ファミリー参観日
5	22	附属大運動会	15	ときわ体育祭	6	対面式
			26	演劇鑑賞教室	7	小学部遠足
					9	同窓の集い
					12	避難訓練
				29	運動会	
6	1	4年中条自然教室（～2日）	7	春期教育実習（～18日）	1	開学記念日
	7	春期教育実習（～18日）	8	市内各種大会（～9日）	7	春期教育実習（～18日）
	11	全校五頭登山	30	陸上地区大会（～7月1日）	21	高等部就業体験（～7月16日）
	24	全校参観、全校除草			24	学校説明会
				25	高等部校外学習	
7	4	北京師範大学実験小学校来日（～5日）	6	各種地区大会（～7日）	1	中学部校内宿泊学習（～2日）
	6	5年佐渡自然教室（～8日）	15	通信陸上新潟県大会	6	学校説明会
	13	6年立山自然教室（～16日）	23	1学期終業式	9	懇談会
	21	1学期終業式	26	県総合体育大会（～27日）	23	1学期終業式
	22	個別懇談会（～23日）			29	高等部チャレンジツアー（～30日）
29	新潟市陸上競技記録会					
8	5	新潟市水泳競技記録会	4	北信越大会（～5日）	2	小学部サマースクール
	19	県内附属学校園合同部会	19	県内附属学校園合同部会	26	高等部登校日（～27日）
	30	2学期始業式	26	2学期始業式		
9	3	全校参観、全校除草	6	2年次教育実習（～10日）	1	2学期始業式
	6	観察、参加実習（～10日）	25	演劇発表会	9	中学部校外宿泊学習（～10日）
	16	クロスカントリー in ははの森			14	避難訓練
	22	複式教育研究会			16	小学部2、3組校内宿泊学習（～17日）
10	23	附属アートミュージアム	1	市総合体育大会	22	第33回特別支援教育研究会
	23	秋期教育実習（～11月5日）	22	秋の教育研究発表会	25	秋季教育実習（～11月5日）
			25	秋期教育実習（～11月5日）		
11	1	新1年生事前説明会	7	学校説明会	8	高等部就業体験（～12月17日）
	12	全附属北信越地区協議会	20	音楽のつどい	12	高等部校外学習
	20	附属ミュージックステーション	30	生徒立会演説会	26	平成23年度入学者選考検査
12	4	新1年生入学選考①	3	全学年懇談会（～8日）	10	懇談会
	7	新1年生入学選考②	11	入学選考検査（結果発表18日）	22	2学期終業式
	20	2学期終業式	22	2学期終業式		
	21	個別懇談会（～22日）				
1	11	3学期始業式	7	3学期始業式	11	3学期始業式
			28	冬の教育研究発表会	14	中学部アカデミー賞
			31	3年進路懇談会（～2月2日）	18	新入生保護者説明会
				21	高等部スキー・そり教室	
2	9	初等教育研究会（～10日）	8	2学年沖繩の旅（～11日）	4	すなやま祭 同窓の集い
	24	六年生を送る会	24	1学年東京巡検（～25日）	8	避難訓練期間（～18日）
					10	小学部そり教室
					15	新入生体験入学（～17日）
				18	中学部スキー・そり教室	
3	7	高学年スキー授業（～8日）	1	同窓会入会式	4	6送会（小）3送会（中高）懇談会
	7	低学年学級懇談会	7	第63回卒業証書授与式	17	卒業証書授与式
	8	中学年学級懇談会	9	公立高校入学試験	18	3学期終業式
	10	高学年学級懇談会	18	3学期終業式	25	離任式
	17	3学期終業式	25	離任式		
	18	第64回卒業証書授与式				
	20	北京師範大学実験小学校訪問（～23日）				
25	離任式					

《 附属長岡小学校 》

《 附属長岡中学校 》

《 附属幼稚園 》

日	事 項	日	事 項	日	事 項
8	着任式、始業式、入学式	8	着任式、始業式、入学式	7	1学期始業式
16	全校学習参観日	9	2・3年 PTA、学校運営説明会	9	入園式
19	全校仲良しの会	16	身体測定	20	こんにちはの会
20	全国学力・学習状況調査	23	P T A ・後援会総会		
		27	学年活動（遠足）		
7	避難訓練①（校園合同）	7	校園合同非難訓練	14	春遠足
19	発見遠足	12	県内附属教頭・研究主任会	22	土曜家族参加日
23	日曜参観日	12	生徒総会		
27	緊急連絡網・メール配信テスト	30	PTA 校園ソフトボール大会		
7	春期教育実習（～18日）	7	春期教育実習（～18日）	7	春期教育実習（～18日）
8	初任者研修①	8・9	市内各種大会	11	プール開き
24	4年サマースクール（～25日）	26	運動に親しむ会（PTA 行事）	25	親子バス遠足
30	学習参観（下学年）	30	中越地区陸上大会①		
1	学習参観（上学年）	1	中越地区陸上大会②	7	七夕会
9	栖吉川フェスティバル	6・7	中越地区各種大会	16	1学期終業式
20	1学期終業式	10	地区懇談会（長岡以外の地区）		
21	5・6年立山自然教室（～23日）	22	成果を語る会		
		24・25	中越吹奏楽コンクール		
		26・27	県総合体育大会		
6	親善水泳大会	4	県吹奏楽コンクール	27	2学期始業式
24	2学期始業式	4・5	北信越大会		
		17	全国中学校体育大会（～25日）		
		18	県内附属学校園合同部会		
		24	抱負を語る会、授業開始		
		29	P T A 校園整備活動		
4	校園大運動会（校園合同）	4	校園大運動会	4	校園合同運動会
6	観察参加実習（～10日）	6	観察参加実習（～10日）	6	観察参加実習（～10日）
7	初任者研修②	11	学校説明会	29	園内探検
15	親善陸上大会	20	西関東吹奏楽コンクール		
18	開校110周年記念式典	22	研究事前検討会		
22	研究会事前打合せ	29	都市新人陸上大会		
29	避難訓練②（不審者対応）				
21	教育研究協議会	6・7	新人各種大会	1	探検遠足
25	秋期教育実習（～11月5日）	21	研究協議会（長岡校園合同開催）	21	校園合同研究会
		25	秋期教育実習（～11月5日）	25	秋期教育実習（～11月5日）
		27	音楽発表会	26	秋のお楽しみ会
				27	柿もぎ
1	願書受付開始	12	全附連北信越協議会（長岡大会）	5	家族参加日
12	全附連北信越地区総会・実践活動協議会長岡大会	18	生徒会役員選挙	21	さくひんてん
15	中国視察研修（教員2名参加）	19	進路説明会		
20	校内音楽会	24	生徒総会②		
26	願書受付締切	30	3年三者面談（～11月3日）		
3	仲よしフェスティバル	11・12	県アンサンブルコンテスト	3	外国の方とのふれあい会
4	入学選考検査	18	入学者選考検査（結果発表21日）	16	2学期終業式
7	選考検査結果発表	22	成果を語る会		
8	個別懇談（～9日）				
22	2学期終業式				
7	3学期始業式	11	抱負を語る会	11	3学期始業式
12	学習参観（～13日）	18	県スキー大会（～20日）	12	お正月お楽しみ会（～13日）
20	避難訓練③（冬季）	27・28	1年研修旅行（東京）	25	そり遠足
21	3・4年スキー（第2回・31日）				
9	5・6年スノースクール（～10日）	2	新入生・保護者説明会	3	豆まき会
14	一日入学	16	卒業生を送る会	18	1日入園
16	学習参観（～17日）	22	2年修学旅行（～25日）沖縄平和学習		
3	ありがとう仲良しの会	1	同窓会入会式	8	お別れ会
17	3学期終業式	4	第63回卒業証書授与式	15	3学期終業式
18	111回卒業証書授与式	9	公立高校一般選抜学力検査	16	第110回保育証書授与式
		18	終業式		
		25	離任式		

2 特色ある教育活動

2.1 教育学部における体験的カリキュラムの概要

No.	名 称	主要対象学年	担当組織	開始年度	内 容	目 標
1	フレンドシップ実習	1、2年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成9年度	(1) 地域の自然・社会・文化に触れ、子どもとともにこれらを体験的に学ぶ。 (2) 教師に求められる資質、力量形成のための有効な方策、連携のあり方について、関係諸機関とともに協議する。	(1) 教育の実践的研究に関する問題関心の基礎を培う。 (2) 教育実習に直結する力量形成の出発点を形成する。
2	入門教育実習	1年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成11年度	(1) 学校における教育活動への参加・観察を行う（3回程度）。 (2) 参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3) その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1) 学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2) 専門教育を受けるための準備段階を形成する。
3	観察参加実習	2年次生	教育実習委員会	平成13年度（現在の体制による実施開始年度）	(1) 附属学校園における教育活動に関する参加・観察を行う。 (2) 参加・観察の内容についての考察および指導教員、実習生への報告、討議を行う。 (3) 3年次「教育実習」に向けた今後の学習方向、課題の明確化を図り、レポートにまとめる。	(1) 学校における教育活動について一通りの理解を得る。 (2) 3年次「教育実習」の準備段階を形成する。
4	教育実習 (主専攻、副専攻)	3、4年次生	教育実習委員会		(1) 教育課程の理解、(2) 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の指導についての理解、(3) 学級経営の理解、(4) 生徒指導の理解、(5) 幼児・児童・生徒の理解、(6) 実践研究の方法の理解、(7) その他。	(1) 教育活動がどのように営まれているかを理解させる。 (2) 実践的指導力の基礎・基本を培わせる。 (3) 研究課題を発見させ追求させる。
5	研究教育実習	4年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成10年度	1単元の計画・実施・評価・改善の一連の教育実践およびその研究過程を踏む。	(1) 単元の指導力、研究力量を形成する。 (2) 教育実践・臨床研究に関する研究方法を習得する。
6	新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	3、4年次生、大学院生他	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成15年度	小学校、中学校、特別支援学校における教育・学習活動の支援を行うことを通じて、学校教育に貢献する。	学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深める
7	子どもふれあいスクール	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成15年度	保護者・地域、学校、新潟市の三者の連携により、子どもたちの安全な遊び場の提供を目的とする「子どもふれあいスクール」に、ボランティア・スタッフとして参加する。	
8	見附市教育委員会「新潟大学連携 学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成18年度	見附市立小・中・特別支援学校からの要請に応じ、教育活動の支援を行う。	
9	三条市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成19年度	三条市内の小学校において、教育活動の補助を継続的に行う。	
10	学校インターンシップ	大学院教育学研究科1、2年次生	学校インターンシップ委員会	平成17年度	(1) 実施校における教育活動の観察・参加、可能な支援活動を行う。 (2) 教育実践に関する問題意識の明確化を図る。	専門的能力と識見を備えた教師に向けた、今後の自己形成の課題を発見する。

実施時期、 期間	関係機関	募集定員	参加学生数	対応する授業科目	そ の 他
通年	公民館、学童保育施設、少年センター等	50名	56名	「教育実践体験研究Ⅰ」(学校教員養成課程共通科目、選択、2単位)	(1) 「教員養成学部フレンドシップ事業」(文部省(当時)、平成9年度開始)に連動する授業科目として設定(「教育実践体験研究」)。平成15年度より、現在の授業科目名に変更。 (2) 平成16年度より、他のカリキュラムとともに、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。平成17年度より、通称を「フレンドシップ実習」とする。
通年	附属幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校および公立、市立の学校園	90名	110名	「教育実践体験研究Ⅱ」(学校教員養成課程共通科目、選択、2単位)	(1) 平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より実施。 (2) 平成11～14年度においては、既存の授業科目(教育実践研究関連科目)により単位認定。平成15年度より、対応する授業科目を新設。 (3) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。
9月、 5日間	附属学校園 (6校)		学校教員養成課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計314名	「教育実習事前・事後研究」(2単位、学校教員養成課程は必修)の一環を構成	(1) 教育職員免許法の改定に伴い、平成13年度より、単位数を1から2に増加、実習の期間を2.5日間から5日間に延長する形で、実施している。
春期・秋 期、各2 週間、総 計4週間	附属学校園、協力校園総計(のべ)200校		学校教育課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計(のべ)802名	「初等教育実習」 「中等教育実習」等	(1) 詳細については、「教育実習のための資料集」(平成20年度版)参照。
通年	附属学校、協力校	特に設定しない	107名	各教科において多様な形で設定。	(1) 平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より、「仮説検証教育実習」(3年次対象)および「総合教育実習」(4年次対象)を実施。 (2) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3) 平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。
通年	新潟市教育委員会・学校支援課、新潟市立特別支援学校、小学校、中学校	110校、 218名 (派遣要 請総数)	72校、122名 (新潟青陵大学からの派遣数は含まない数)	「教育実践体験研究Ⅲ」(学校教員養成課程共通科目、選択、2単位)	平成17年度より新設。 (1) 平成14年度における試行を経て、平成15年度より本格的な取り組みを開始。 (2) 平成15・16年度、新潟大学地域貢献特別事業計画の一環を構成(カテゴリー「人材養成」、事業名「児童・生徒の学力向上推進事業」)。 (3) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (4) 平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。 (5) 平成17年度以降においては、新潟市と新潟大学との包括連携協定(平成17年6月締結)による事業の一環を構成。 (6) 平成18年度から、新潟青陵大学との共同による派遣を開始。 (7) 平成21年度から、幼稚園への派遣を開始。
通年	新潟市教育委員会・地域と学校ふれあい推進課	特に設定しない	45名(教育学部31名、他学部14名)	特に設定しない	新潟市立の小学校、総計10校(関屋、新潟、栄、鏡淵、笹口、坂井東、新通、東青山、五十嵐、西内野)に、ボランティア・スタッフとして学生を派遣した。
8～9月、 1～2月	見附市教育委員会 見附市立小・中・特別支援学校	特に設定しない	61名 (のべ162名)	特に設定しない	(1) 見附市立見附小学校、見附第二小学校、上北谷小学校、田井小学校、名木野小学校、新潟小学校、今町小学校、葛巻小学校、見附中学校、南中学校、西中学校(総計11校)に対して、主として、8月～9月に実施された自然教室、水泳指導、補充学習(国語、算数等)等に学生を派遣した。
通年	三条市教育委員会・学校教育課、三条市立小学校	特に設定しない	4校、4名	特に設定しない	(1) 派遣先は、三条市立裏館小学校、月岡小学校、条南小学校、南小学校(総計4校)。 (2) この他、「わくわく科学フェスティバル」(8月)、三条市中学校音楽祭(11月)、子育て支援課「放課後子ども教室」に対しても、それぞれ、18名、3名、3名(のべ22名)の学生を派遣した。
通年	附属学校園、協力校園	特に設定しない	8名	「学校インターンシップ」(教育実践共通科目、選択必修、2単位)	(1) 平成17～19年度においては、「教育実践総合研究」(研究科共通科目、必修、2単位)との連動による実施。 (2) 平成20年度におけるカリキュラム改革により、対応する授業科目を現在の形に独立させた。 (3) 平成20年度から、部分的に、新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業と連動。

2.2 「フレンドシップ実習」の概要

新潟大学教育学部カリキュラムの1つの特徴は、「4年一貫の体験的カリキュラム」である。「フレンドシップ実習」（授業科目「教育実践体験研究Ⅰ」2単位）はその1つである。

「フレンドシップ実習」は、今年度で14年目を迎えた。主に1、2年次学生が参加し、地域の自然・社会・文化に触れながら、子どもと共に体験的に学ぶことを目的としている。同じく1年次対象に開講されている「入門教育実習」が学校への参加を主たる内容としているのに対して、本実習は学校外の教育施設や団体である公民館・NPO法人・ひまわりクラブ・子どもふれあいスクール等の全面的な支援・協力を戴いて、学校外や放課後の子どもたちとの触れあい活動を中心とするところに特色がある。

今年度は4コースを開講し、56名が受講した。一昨年度には7コースを、昨年度には5コースを開講していたが、教員の公務上の都合や転出等のために、開講コースが減少傾向にある。しかし、受講者数は昨年度（48名）より増加しており、希望者は多い。コース・指導体制の拡充が課題となっている。

本実習では、大学の講義等に支障を来さないように、原則、週末・休業中を利用してコース毎に実施している。短期集中型、数ヶ月に亘る長期開講型など、活動内容の実態に合わせて、実施時期・開講形態等は多様である。

コース毎の成果発表と意見交換のために、12月4日（土曜日）午前中に全体発表会を開催した。全体発表会の運営に当たっては、学生委員会を組織した。学生の主体的な活動を引き出し、学生自身の企画運営の力を育てることを狙いとしている。一ヶ月ほど前からの取り組みになり、組織立ち上げに際しては、教員の指導・アドバイスが不可欠であるが、当日は、殆ど学生主体で運営された。次年度への課題としては、中間交流会等を設けることの可能性を検討したい。

表 平成22年度「フレンドシップ実習」開設コースの活動内容等の概要

コース名	担当教員	活動時期	主な内容	活動場所	参加学生
1. グループ体験コース	松井賢二	個別実習－9月に各自が実施 全体実習－8月27日	ひまわりクラブと連携し、学生企画の遊びで交流する	西内野ひまわりクラブ 新通ひまわりクラブ他	21名
2. 自然科学実体験コース	宮菌 衛	5月29日、6月12日、 7月10日、9月11日、 10月9日、11月6日 各土曜日	NPO法人星空ファクトリー主催の小学生対象「自然科学実体験講座」の補助と一部指導体験	NIC 新潟大学前	11名
3. 野外活動体験コース	大橋正春	9月26日と10月9－ 10日の1泊2日	ウォークラリーや1泊2日のキャンプ等自然の中での交流活動が中心	新潟大学構内	16名
4. 「子どもふれあいスクール」コース	神林信之	継続的に実施 新通小学校の例 ・水曜日放課後 ・土曜日午前中	平日の放課後や土曜日の午前中に、学校施設を利用して地域の子ども同士や子どもと大人が遊びを通して触れあう。絵本読み・鬼ごっこ等	新通小 西内野小 五十嵐小 鏡淵小	8名
全体発表会	担当教員 全員	12月4日午前中	各コースの活動発表と小グループでの意見交換会を学生主導で実施	教育学部 大講義室	56名

2.3 「入門教育実習」－1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発

1. 「入門教育実習」とは

「入門教育実習」とは、学校教員養成課程に所属する1年次生を対象とする教育実習カリキュラムであり、同課程の共通選択科目群の一つである、授業科目「教育実践体験研究Ⅱ」として開講されている。

主要な活動は、①学校における教育活動への参加・観察を行うこと（計3回）、②活動の内容、成果をレポートにまとめると同時に、報告会において発表し、担当教員からの講評を受けること、③それを通して、その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について考察することである。上記の全体を通して、①教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を図ること、②専門教育を受けるための準備段階を形成することを目的としている。

この実習の実施は、平成11年度の試行から数えて13年目にあたる。平成20年9月末における教育実践総合センターの廃止により、平成22年度からは、実施組織が、教育学部内に設置された教員養成フレンドシップ事業推進室（「入門教育実習」実施専門部会）に移行している。平成22年度においては、26名の学部教員、14名の実習校教員を中心に、総計11校3園の協力を得て、実施された。

2. 概要

4月に、学年別ガイダンスでの簡単な説明に加え、独自の説明会を開催し、受入学生を確定した。説明会出席者は138人、受入者は111人であった。なお、この実習においては《コース》が活動の基礎単位となる。コースは、学生10～12名程度、学部教員3名、実習校担当教員1～3名によって構成される。平成22年度において設定したコース名と受入学生数を次に示す。

(A) 附属新潟小学校訪問コース	15名	(F) 幼稚園・小・中学校訪問コース	12名
(B) 附属新潟中学校訪問コース	12名	(G) 学校行事参加・見学コース	12名
(C) 附属特別支援学校訪問コース	12名	(H) 附属長岡学校園訪問コース	12名
(D) 幼稚園訪問コース	12名	(I) 見附市立小・中学校訪問コース	12名
(E) 中学校訪問コース	12名		総計111名

上記の体制により、学生は、5月から11月までの期間、実習校から提供され、カリキュラムとして編成された教育活動（《メニュー》）に参加した。教育活動は、1日学校訪問、1日幼稚園訪問、授業観察、運動会、遠足、自然体験教室、文化祭等であり、宿泊を伴う活動も含まれている。

教育活動への参加が終了した後、学生は、活動の内容、成果に関するレポート（個別レポート）を作成・提出し、担当教員による指導を受けた（総計3回）。これらの活動を基礎として、12月には報告会を開催し、学習成果の報告と交流を図った。報告会には、履修学生、学部の担当教員に加え、実習校の担当教員6名、過去の履修経験者（4年次生）3名が出席し、履修学生の報告に対する講評を行った。報告会終了後の1月に、学生は上記の活動全体を振り返って、最終レポート（総まとめレポート）を作成・提出すると同時に、各コースにおいてレポート集を編集して、約6ヶ月間の活動を終了した。

3. 今年度の特徴

(1) 学生の動向

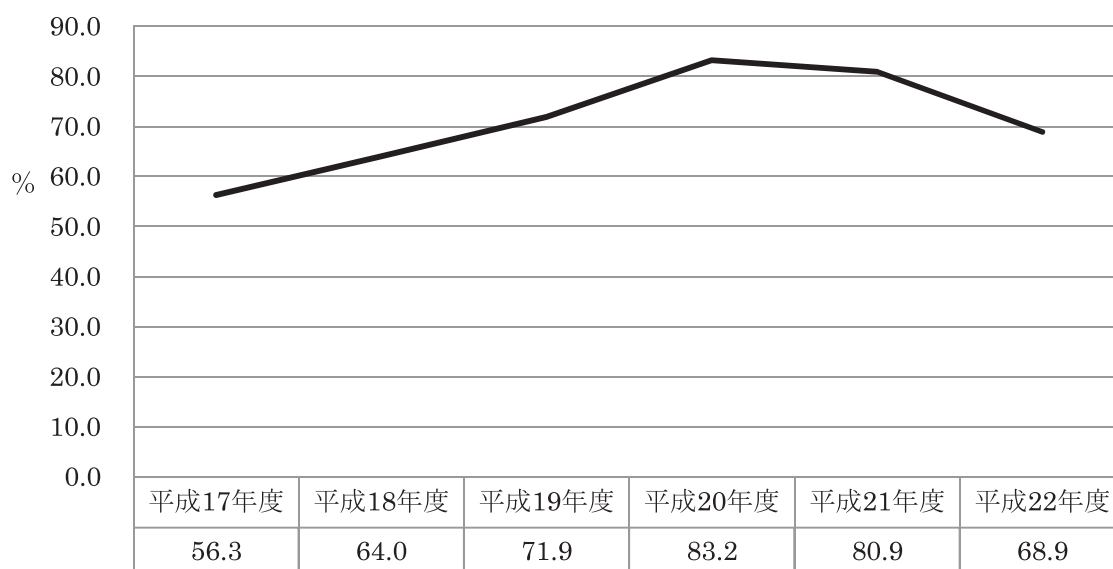
平成21年度との比較によれば、受入学生数においては106名から111名へ、5名の増加が見られた（学生定員は90名）。ただし、これに対して、教員養成課程全体の入学者数は222名から234名へ、12名の増加、説明会への出席者は138名から182名へ、44名の増加、履修希望者も131名から161名へ、30名の増加が見られる。その結果、受入率（受入学生数／希望者数）は80.9%から68.9%へと減少している。なお、

受入率は、平成21年度に続き、2年連続して減少している（グラフ参照）。学生定員の増、コースの新設について検討する必要性が示されている。

(2) 担当体制

平成22年度においては、受入校としてご協力頂いている6つの附属学校園の校園長が担当教員となる体制を新設した。その結果、平成21年度と比較して、新たに、4名の校園長が加わる形になった。校園長は、学部教員2名との共同により、特に、受入校において学生の指導を担当した。

グラフ 「入門教育実習」受入率の推移（過去6年間）



4. おわりに

平成22年度に限ったことではないが、学生・教員のレポートには、この実習の教育効果に対する高い評価が示されている。多様な専門領域から、多くの学部教員がこの実習の担当教員となっている。この事実は、この実習が教員養成カリキュラムとしての重要な意味を備えていること、それが、多くの教員に共有されていることを示している。このような成果を維持しながら、履修を希望する学生をなるべく多く受け入れる体制の構築についても、検討を進めることが必要になっている。



実習風景

なお、実施の全体については、新潟大学教育学部教員養成フレンドシップ事業推進室編『教育を受ける立場から教育を行う立場への姿勢・視点の転換』（1年次教育実習カリキュラム開発研究（第12年次）報告書、2011年3月）に報告している。学部のホームページにも一部を公開している。

2.4 「研究教育実習」－4年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究

新潟大学教育学部「教員養成フレンドシップ事業」の一環として、平成16年度より、教育実習研究会（「研究教育実習」研究グループ）を設置し、「研究教育実習」のカリキュラム開発研究を推進している。「研究教育実習」とは、教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムであり、本開発研究の目的は、(1)多様な教科領域において研究教育実習カリキュラムを開発すること、(2)附属学校園との連携協力体制を含む、組織的な研究開発体制を構築することである。なお、本学部の「体験的カリキュラム」において、この「実習」は、「学習支援ボランティア」とともに、4年次段階における教育実習カリキュラムの重要な構成要素として位置付けられている。

平成22年度においては、国語、社会、家庭科、数学、理科、保健体育、美術の各研究室において取り組みが進められた。その概要を下記に示す。

また、平成22年度においては、12月20日に、学習会「『研究教育実習』の現状と課題」（学部FD）が開催され、社会科の実践事例が、学部教員、学生・院生、受入校教員から報告された。

なお、今年度の詳しい取り組みや学習・講演会の内容については、報告書『「研究教育実習」の多様な展開（Ⅶ）』（2011年3月）を参照。

学部担当教員 (所属、専門分野)	授業科目の概要 (名称、開講時期、履修学生数)	研究の概要 (目的、教科・領域、対象、方法等)	授業の概要 (学校・学年、時期、時数、授業者等)
常木 正則 (言語文化コミュニケーション講座・国語科教育学)	「国語科教育実践分析演習Ⅰ・Ⅱ」 (前期・後期、各2単位、4年次3人)	履修生の各人が国語科の3領域1事項－「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」〔言語事項〕のいずれかについて、1単元の学習指導に関する仮説検証的研究を行った。	(1) 附属新潟小学校1年、2月／2年、3月、3年次、5時間。 (2) 附属新潟中学校2年、3月中旬、3年次、5時間。 (3) 新潟市立青山小学校1年・2年11月下旬～12月中旬、4年次、5時間。 (4) 新潟市立関屋中学校2年、12月中旬、4年次、5時間。
児玉 康弘 (人間社会ネットワーク講座・社会科教育学)	「社会認識形成史特講Ⅰ」「社会認識形成史特講Ⅱ」 (3、4年次、前後期、2単位、15人)	中学校社会科歴史的分野の古代史で「環境と文明」に関する小単元を開発し、実験授業を実施した。	(1) 附属新潟中学校1年1組、2組、3組、12月から1月にかけて、各2時間。
高木 幸子 (生活環境学科目・家庭科教育学)	「卒業研究」 (4年次、通年、6単位、4人)	卒業研究の内容の一部について学校現場で実証的に検討した。なお、研究内容の関係で実践の時期が合わなかった1名については現職教員から2回にわたる評価を受けた。	(1) 附属新潟小学校、5・6年、11月～12月、3時間。 (2) 新潟市立新通小学校、6年、11月、2時間。 (3) 新潟市立坂井東小学校、5年、11～12月、6時間。 (4) 小・中学校家庭科教員等6名。
垣水 修 (自然情報講座、幾何学)	「卒業研究」 (4年次、通年、6単位、7人)	卒業研究において、環境問題について考察する場合の数学の役割と、それを学校教育にどのように取り入れていけばよいか、について研究した。特に、「生物多様性」を題材とする教材を開発し、附属新潟中学校において授業実践を行った、それを基に授業分析と考察を行った。	(1) 附属新潟中学校2年、11月、4年次生、2時間。

<p>和田 信哉 (自然情報講座・数学教育学)</p>	<p>「数学科教育法Ⅳ」 (3、4年次、後期、2単位、65人)</p>	<p>秋期実習の前に講義の中で指導案を検討し、それを実践したビデオを視聴・検討し、指導案を再検討して提案する活動を行った。</p>	<p>(1) 附属長岡中学校、第1、3学年(秋期教育実習)、11月、3年次。 (2) 附属新潟中学校、第1、2学年(秋期教育実習)、11月、3年次。</p>
<p>興治 文子 (自然情報講座・理科教育学)</p>	<p>該当なし (JST(科学技術振興機構)理数系教員(CST)養成拠点構築事業による正規授業外プログラム) (教育学部・理学部、3、4年次、10人)</p>	<p>理科4科目の特性を理解し、効果的なICTを活用した理科授業実践を行った。生徒にとって既存の内容を発展的に取り上げるため、実施1カ月前から実習先と連絡を取り、授業づくり、予備実験、模擬授業などを行った。授業後には、協議会、生徒に対するアンケート調査による授業分析などを行い、考察した。</p>	<p>(1) 燕中等教育学校、第3学年、5月～2月、80分×2回をのべ5日、CST(コア・サイエンス・ティーチャー)養成プログラムの学生(教育・理学部の3、4年次)。</p>
<p>滝澤かほる (保健体育・スポーツ科学講座・保健体育科教育)</p>	<p>「体育方法学演習ⅠA」 (4年次、前期、後期、2単位、2人)</p>	<p>今年度は特別活動のクラブ活動の実習を行った。 クラブ活動は、学年や学級を超えて同じ興味・関心を持った児童による活動である。授業とは違うクラブ活動という場におけるリズム体操の取り上げ方、支援の方法や内容について、さらにクラブ活動におけるリズム体操の可能性を知ることを目的とした。</p>	<p>(1) 附属長岡小学校、第4、5、6学年リズム体操クラブ、5月～11月の隔週火曜日)14:40～15:50、全12回。 (2) 12月4日(土)第29回体操発表会:新潟市鳥屋野総合体育館、クラブ活動。</p>
<p>柳沼 宏寿 (芸術環境講座、美術科教育)</p>	<p>「美術科教育課題研究」 (4年次、通年、2単位、1人)</p>	<p>美術科における色彩教育の重要性に着目し、その方法論の確立を目指す研究において、具体的なスキルトレーニングの方法を考案し、新潟市立大形中学校において実践した。</p>	<p>(1) 新潟市立大形中学校、1学年、10～11月、4年次。</p>

2.5 「学習支援ボランティア」派遣事業および関連事業 ー学生の学校支援を組み込んだ教員養成カリキュラムの開発に向けて

平成15年度より、新潟市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア」派遣事業を、継続的に実施している。この事業は、学生（主として4年次生）、大学院生が、半年間、週1回程度、定期的に学校に入り、授業補助、校外学習引率、配慮を要する児童・生徒の個別指導等、教育活動の支援を行うことを通して、学校教育に貢献すると同時に、学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深めることを目的とする事業である。新潟市と新潟大学との包括連携協定（平成17年6月締結）による事業の一環として位置付けられている。現在、教育学部においては教員養成フレンドシップ事業推進室が、新潟市教育委員会においては学校支援課が、それぞれ、関連業務を担当している。

事業開始後8年にあたる平成22年度において、学校からの派遣要請総数は110校、218人であった。派遣されたのは、教育人間科学部4年次生、教育学部3年次生の他、大学院教育学研究科、人文学部、経済学部、医学部、理学部、工学部、養護教諭特別別科、大学院現代社会文化研究科に在籍する学生・大学院生、総計122人である。今年度の派遣先（学校数、派遣総数）は、小学校（48校、83人）、中学校（22校、35人）、幼稚園（2校、4人）、総計72校である。学校数、派遣人数については、平成21年度（64校、116人）から若干増加した。なお、平成18年度から、新潟青陵大学が、この事業に参加している。

新潟市教育委員会の調査によれば、今年度においても、多くの学校から、学習内容の理解・定着、学習意欲の向上、安全管理、その他、多方面において効果があったことが報告されている。同時に、事業の継続、派遣人数の増員、未派遣校の解消に対する強い要望が寄せられている。

大学内においては、9月に、中間報告・交流会を開催し、学生の活動状況、課題、要望等に関する報告、意見交換を行った（出席者、学生・院生、大学教員、新潟市教育委員会担当者、総計33人）。12月には、「平成22年度『学習支援ボランティア』派遣事業の成果と課題」をテーマとする公開シンポジウムを開催し、大学、教育委員会からの報告、学生による成果発表、受入校からの報告を受けた後、学生と派遣校教員との意見交換、それにもとづく討論を行い、来年度の実施に向けた課題を探った（出席者、学生・院生、現職教員等、総計約120人）。

平成17年度より、本事業に対応する授業科目「教育実践体験研究Ⅲ」（学校教育課程共通科目、2単位、選択）が設定されている。平成22年度においては、15人の学生が単位を取得した。事業の全体について、報告書『新潟市教育委員会との連携協力による「学習支援ボランティア」派遣事業の実施（第8年次）』を作成した。

関連事業として、新潟市教育委員会地域と学校ふれあい推進課からの要請に応え、「子どもふれあいスクール」ボランティアスタッフとして、小学校10校に対して、45人の学生（他学部生14人を含む）を派遣した。また、見附市教育委員会、三条市教育委員会と連携し、見附市市立学校には11校（小学校8校、中学校3校）に61人、三条市市立学校には4校（小学校4校）に4人の学生をそれぞれ派遣した。



「学習支援ボランティア」活動風景



公開シンポジウム 実施風景

2.6 教育実習

(1) 教育実習制度の概要

本学部の特徴は、1年次入門教育実習、2年次観察・参加実習、3年次教育実習、4年次副免教育実習および研究教育実習と、4年間一貫の教育実習が制度化されているところにある。これらのうち入門教育実習と研究教育実習については、別項に掲げられるので、その他の教育実習について記す。

教育実習は下表を標準として実施されている。

【本学部標準教育実習制度】

2年次	観察・参加実習事前指導	4時間
	観察・参加実習	1週間
3年次	事前指導	20時間
	春期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	2時間
	秋期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	4時間
4年次	春期教育実習（副免）	2週間

(2) 教育実習の特色

本学部における教育実習の特色として以下の点をあげることができる。

① 事前事後指導

事前事後指導では、30時間（15コマ）を適切な時期に配置している。

事前指導では、小学校主免学生には国語・算数・社会・理科・図工・音楽・道徳の7教科10コース、中学校主免学生には全教科11コース、その他、幼稚園と特別支援学校の主・副免学生に各1コースを開講し、それぞれのコースにおいて指導案作成演習と模擬授業を実施した。

② 観察・参加実習

3年次の教育実習に向けて、予め学校や児童・生徒の実態を把握し予備知識を得るために、2年次に、観察・参加実習を行っている。

附属学校園において1週間実施した。

③ 春期と秋期における教育実習

3年次教育実習は、春期と秋期に分割し、附属学校園と一般協力校など、異なる学校における機会を提供している。

④ 各地区学校との連携協力

新潟地区・長岡地区の校長会長との打ち合わせ会を定例化している。また、実習生を受け入れた全実習校の担当者が一同に会する教育実習運営協議会を、年に一度開催している。

2.7 介護体験

(1) 介護等体験について

介護等体験は、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」(平成9年法律第90号)が公布され、平成10年4月1日から施行されている。

本学部では、学校教員養成課程(平成19年度までは学校教育課程)所属の学生のうち特別支援教育専修(平成19年度までは障害児教育専修)を除く全員と、その他の課程所属学生のうち中学校免許状の習得を希望する者を対象として、県内社会福祉施設で5日間、本学の特別支援学校で2日間の「介護等の体験」を行っている。実習内容は、障害者、高齢者等に対する介護、介助のほか入所者との交流、職員の業務補助等々幅広い体験となっている。

(2) ガイダンス及び事前指導

実習に先立ち、次の次第によるガイダンス及び事前指導を行った。

○ 事前指導

月 日 平成22年4月8日(木)

対 象 平成22年度に介護等体験を希望する者(主として2年生)

(1) 開会

(2) 介護等体験の実施にあたって

全学教職支援センター教職課程支援部門 宮 蘭 衛 部門長

(3) 介護等体験受け入れ側による事前指導

「社会福祉施設等における介護等体験について」

新潟県介護福祉士会副会長 大塚 トシ子 氏

「附属特別支援学校における介護等体験について」

附属特別支援学校副校長 藤村 修 氏

(4) 介護体験の諸連絡等

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

および人文社会・教育科学系学務課職員

○ ガイダンス

月 日 平成22年12月3日(金)

対 象 平成23年度に介護等体験を希望する者(主として1年生)

(1) 介護等体験実施の概要について

全学教職支援センター教職課程支援部門 宮 蘭 衛 部門長

(2) 介護等体験の申込等の手続きについて

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

および人文社会・教育科学系学務課職員

(3) 実習状況

平成22年度は、学校教員養成課程207名、その他の課程76名、大学院4名、科目等履修生1名の計288名が次の表のとおり実習を行った。

(4) 効果と今後の課題

施設や学校からは、実習状況は概ね良好との報告を受けているが、進路変更等により6名の実習取消があり、更なる事前指導の取り組みが求められる。

平成22年度介護等体験実施施設一覧

地 域	施設数	人 数	備 考
新潟市	57	201	
長岡市	9	11	
三条市	7	13	
新発田市	8	13	
柏崎市	4	7	
加茂市	1	4	
小千谷市	2	3	
十日町市	1	1	
村上市	1	2	
見附市	1	1	
燕市	3	5	
糸魚川市	1	1	
妙高市	2	3	
五泉市	3	3	
上越市	6	8	
阿賀野市	2	2	
佐渡市	2	3	
魚沼市	2	3	
南魚沼市	1	1	
胎内市	2	2	
津南町	1	1	
合 計	116	288	

平成22年度特別支援学校実習一覧

	回 数	実 施 期 間	人 数
附属特別支援学校	1	H22. 5. 12 ~ 5. 13	29
	2	H22. 5. 19 ~ 5. 20	29
	3	H22. 5. 27 ~ 5. 28	28
	4	H22. 6. 29 ~ 6. 30	28
	5	H22. 7. 7 ~ 7. 8	30
	6	H22. 11. 9 ~ 11. 10	29
	7	H22. 11. 16 ~ 11. 17	27
	8	H22. 12. 8 ~ 12. 9	28
	9	H23. 1. 19 ~ 1. 20	29
	10	H23. 1. 26 ~ 1. 27	27
その他特別支援学校			4
合 計			288

2.8 キャリア・デザインⅠ、Ⅱの開講

平成17年度より、3年次以上の教育人間科学部学生を主たる対象とした全学科目「キャリア・デザインⅠ」、「キャリア・デザインⅡ」を開講してきた（担当教員：松井、高橋）。

6年目を迎える今年度からは、対象学年を2年次以上に拡大し、2つの授業を充実・発展させる形で、あらたに「キャリア・デザイン論」（2単位）を開講した。

この講義は自己理解を深めて己を知り、見知らぬ他人とのコミュニケーションを図ることを積極的に行うとともに、十分に時間をかけて将来のキャリアを考えようというものである。

テキストとして、本年度も『キャリア・デザイン』（仙崎武監修、文化書房博文社）を利用し、下記のとおり、集中講義で開講した。具体的な内容は次のとおりである。

* 「キャリア・デザイン論」（2年生以上対象、15コマ、2010/7/3、8/31、9/1、9/2開講）

担当教員 (コマ数)	内 容
松井賢二 (12)	「自己分析」をテーマとして、まず職業選択における自己分析の重要性を講義する中で、その必要性を認識させた。そして、2種類の検査（VPI、CA-PA）を実施しその結果を検討することによって、自己分析を行った。これらの分析結果を参考にして、自分に適した職業について再考し、その理由を明確化した。さらには、自己分析の結果を参考にしながら、ロールプレイングで模擬面接を行うことを通して、再度自己を見つめると同時に、自己PRの仕方などについても実践的に学習した。
高橋桂子 (3)	キャリアをデザインするためには、1) 己を知り、2) 環境を知り、3) 己と環境との関わり能力を開発することが必要である。本講義では2)と3)に重点をおいた。具体的には2)では仕事と法律・経済（生涯所得、所得税の算出や労働基準法）を、3)では他者と明確な差別化をはかった「3分間トーク」を3回行い、初めて出会った参加学生同士で評価しあったり、自分が抱える問題を課題するためのチャート図作成を行い、関わり能力開発を試行した。

2.9 インターンシップ

○「学校インターンシップ」－大学院教育における実践的カリキュラムの開発

大学院教育学研究科のカリキュラム改革の一環として、平成17年度より「学校インターンシップ」を実施している。「学校インターンシップ」とは、(1)実施校における教育活動の観察・参加、可能な支援活動を行うと同時に、(2)教育実践に関する問題意識の明確化を図り、それを通して、(3)専門的能力と識見を備えた教師に向けた、今後の自己形成の課題を発見することを目的とする活動である。平成19年度までは「教育実践総合研究」(2単位)の一環として位置付けられていたが、平成20年度に行われたカリキュラム改革により、「学校インターンシップ」(教育実践共通科目、2単位)として独立している。

平成22年度は8名の大学院生が5校において活動を実施した。その概要を次に示す。

平成22年度 大学院「学校インターンシップ」実施概要

No.	氏名	分野・専修	配属学校	活動に関する内容		
				教科等	課題、目的等	期間
1	松永幸三	教育心理学	中野小屋中学校	教科指導全般	中学校における長期休業中の自主学習の支援	H22.07～H23.03
2	新井寿和	特別支援教育	附属特別支援学校	通級指導教室	通級指導教室における発達障害のある中学生を対象としたセルフモニタリングの指導	H22.06～H23.03
3	LEE EUN JUNG	特別支援教育	附属特別支援学校	通級指導教室	通級指導教室における発達障害のある中学生を対象としたソーシャルスキルトレーニング	H22.05～H23.03
4	石坂苗奈	特別支援教育	附属特別支援学校	通級指導教室	発達障害通級指導教室での実践-コミュニケーションに関する介入	H22.05～H23.03
5	山田智久	特別支援教育	附属特別支援学校	通級指導教室	通級指導教室における授業観察と指導	H22.05～H23.03
6	阿久津源基	社会科教育	附属新潟中学校	社会科	授業観察と「研究教育実習」との連携	H22.07～H23.03
7	柏川陽祐	数学教育	小針小学校	算数	教育学の理論と学校現場の実態	H22.06～H23.03
8	比護智洋	数学教育	岩室中学校	数学	数学の授業観察	H22.08～H23.02

また、2010年12月13日に受講生が集まり、「学校インターンシップ」報告会が開催された。今年度においても、大学院生によって組織された実行委員会が計画、運営を行った。当日は、宮菌衛委員長による挨拶に続いて、代表者3名による活動報告があり、それに基づいて、出席者全員により、①問題意識、②成果とその活用の方途、③今後の課題、④「学校インターンシップを、より実りあるものにするためには」に関する意見交換・討論が行われた。最後に、五十嵐尤二研究科長による挨拶が行われた。

なお、平成21年度における活動の内容と成果について、次の報告書を発行した。新潟大学教育学研究科学校インターンシップ事業委員会編『大学院教育における実践的カリキュラムの開発(第5年次)』、平成21年度『学校インターンシップ』実践報告書、2010年5月。

○ 企業等インターンシップ

(1) 学習社会ネットワーク課程

平成10年4月設置の当課程は、第1期学生が3年生となる平成12年度より「社会教育主事インターンシップ」を実施しています。社会教育主事資格取得希望者が生涯学習行政の実務を経験することにより、講義で得た（得る）知識の高度化を図り、社会教育主事への就労意欲を高めることを企図しています。

① 平成22年度インターンシップの概要

・実施時期及び期間

平成22年8月～9月に約2週間（期日は受入機関ごとに決定）または通年（5月～1月）で10日間。

・実習内容

生涯学習行政に関わる業務

各受入れ機関の日常業務のほか、生涯学習関連施設等での実習も適宜行う。

・教育課程上の位置づけ

「学習社会実習Ⅱ」（選択科目・2単位。担当教員：雲尾）での単位認定

インターンシップ先職員による評価、及びインターンシップ・レポートの発表をもとに、社会教育主事インターンシップ委員会で評価する。

・インターンシップ受入機関（【 】内数字は実習生数で延べ数）

新潟市公民館：中・石山【3】、中央【2】、鳥屋野【4】、曾野木【2】、坂井輪【4】、小針青山【1】

新潟市図書館：石山【1】、中央【1】、生涯学習センター【1】、西川【1】

新潟県立生涯学習推進センター【2】

関川村教育委員会生涯学習課（関川村公民館・村民会館）【2】

② 報告書

『平成22年度社会教育主事インターンシップ報告書』（平成23年2月23日）140部発行。実習受入機関、新潟市内公民館・図書館、関連機関、実習学生に配布していますので、新潟市図書館等で閲覧可能です。また、平成23年度の学習社会ネットワーク課程3年次生全員に配布し、感想用紙（および参加希望者は参加申請用紙）を提出するようにさせています。

(2) 健康スポーツ科学課程

平成22年度 ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習

新潟大学教育学部健康スポーツ科学課程3年次必修科目であるヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習（インターンシップ）を、平成22年8月30日から平成22年9月30日までの間の2週間で実施した。

健康スポーツ科学課程では課程発足以来、この実習を必修科目に位置付けており、今回は12回目となる。本実習は、就業以前に自らの専攻や将来のキャリアに関連した企業等において就業体験することで、実際の職場での業務や実務的な体験を通じて様々な知見や技能を身につけることを目的としている。

7月22日には元オリンピック選手のゼッターランド・ヨーコ氏を迎えて、事前指導特別講義「スポーツの持つ可能性～チャンスはいつもそこにある！～」を行った。

今年度は33名が実習に参加した。事前指導を学内で5回、特別講義1回（7/22）、実習期間をはさんで事後指導、実習報告会（10/21）を行った。今年度は12の実習事業所等で実習を行った。事業所ごとの実習計画に沿って、事業計画立案方法、事業計画の実施、実践展開の現場実習（観察実習と指導実習など）を行い、事業所の指導員により毎日実習記録を作成した。実習参加態度、指導実習における実践、実習記録などを項目ごとに、そして総合的に評価してもらった。

10月21日には実習後の事後指導として実習報告会を実施し、さらに「平成22年度ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習報告書」を作成した。

平成22年度 ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習 実習先・実習学生数

	実 習 施 設	実習生数	実 習 期 間
1	新潟市保健所	4	8月30日(月)～9月10日(金)
2	財団法人 新潟県体育協会	3	8月30日(月)～9月10日(金)
3	新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター	8	9月17日(金)～9月30日(木)
4	新潟県障害者交流センター	1	8月31日(火)～9月12日(日)
5	新潟市スポーツ振興課・新潟市陸上競技場	2	8月31日(火)～9月10日(金)
6	鳥屋野総合体育館	2	8月31日(火)～9月10日(金)
7	東総合体育館	2	8月30日(月)～9月10日(金)
8	西総合体育館	2	9月1日(水)～9月12日(日)
9	亀田総合体育館	2	8月30日(月)～9月10日(金)
10	下山スポーツセンター	1	8月30日(月)～9月10日(金)
11	ビジョンよしだ	3	9月1日(水)～9月12日(日)
12	スポーツバイキング分水	3	9月1日(水)～9月16日(木)

実習参加学生33名

(3) 音楽表現コース

音楽表現コースでは2001年度からインターンシップを実施しており、現在、6つの企業や団体が学生を受け入れている。それらは、東京交響楽団事務局、Hakuju Hall、鼓童、新潟市民芸術文化会館「りゅーとぴあ」、新潟県文化振興財団、ヤマハミュージック関東・新潟店などである。音楽専用ホールや都内の音楽事務所、また日本の代表的なプロ・オーケストラ等の協力により、音楽マネジメントの実際、交響楽団の運営、世界規模の音楽祭の運営、音楽教室の運営や楽譜販売など、音楽を接点とした幅広い業種での就業経験が可能となっている。2010年度のインターンシップには4名が参加し、以下のような職業体験実習がなされた。詳細は、『平成22年度新潟大学教育学部芸術環境創造課程音楽表現コース インターンシップ報告書～大学を現場へ～』第10号を参照

・Hakuju Hall：8・9月（1名）

リクライニング・ジャズ・ヴォーカル・コンサート、並びに第5回Hakujuギターフェスタ2010「ギターワールト・トゥデイ」等でのケータリング業務・受付業務・タイムキーパーなどの運営業務。

・財団法人 鼓童文化財団：8月（1名）

国際的な音楽祭「Earth Celebration 地球の祝祭」（佐渡市小木町鼓童村）での、アーティスト・アテンド、文化財団での講習会運営等のマネジメント業務。

・東京交響楽団事務局：10・11月（1名）

日本でも歴史と伝統のあるプロ・オーケストラ、東京交響楽団でのコンサート運営業務。
「東京劇場劇場シリーズ」「社団法人全日本コーヒー協会創立30周年記念コンサート」
「東京交響楽団クラシック・スペース★2010」「名曲全集第60回」など。

・ヤマハミュージック関東 新潟店：9月（1名）

机上研修、JOCフロアコンサート・レッスン見学、JOC&なかよしソング・コンサート見学、店舗業務等。

2.10 各課程の特色ある教育活動

○ 国語教育講座の活動

1. 新潟大学教育学部国語国文学会

(1) 新潟大学教育学部国語国文学会平成22年度夏期研究会

①日時：平成22年7月24日（土）14：00～17：00

②場所：新潟大学教育学部 B 棟105講義室

③内容

・シンポジウム 『『伝統的な言語文化』を取り入れた国語科授業の多様な展開』

コーディネーター 高橋 功（元新潟市立東新潟中学校校長）

シンポジスト 多田 和幸（新潟大学教育学部附属長岡小学校教諭）

吉原 郁夫（加茂市立七谷中学校校長）

山本 寛（新潟県立国際情報高校教諭）

角谷 聰（新潟大学教育学部准教授）

・臨時総会

(2) 新潟大学教育学部国語国文学会平成22年度研究大会

①日時：平成23年2月5日（土）10：00～13：50

②場所：新潟大学教育学部 B 棟204講義室

③内容：

・研究発表

解釈の質はどのように分析できるのか — 「ごんぎつね」における解釈の豊かさと鋭さをめぐって—
上越教育大学学校教育実践研究センター 佐藤 佐敏

池田晶子「言葉の力」（教育出版三年）を読む — 研究者の解釈をめぐって—

佐渡市立内海府中学校 三村 孝志

・講演

和歌はどのような場で詠まれたのか

新潟大学教育学部

山本 啓介

・総会

2. 常木正則教授退職記念行事

(1) 常木正則教授退職記念講演

①日時：平成23年2月5日（土）14：00～15：30

②場所：新潟大学教育学部 B 棟204講義室

③演題：一人前レベルの国語科学習指導知識・技術、及びその養成と研修

(2) 常木正則教授退職記念祝賀会

①日時：平成23年2月5日（土）17：00～19：00

②場所：新潟グランドホテル

③内容：常木正則先生退職記念の会会員によるお祝いの言葉、記念品贈呈等

○ 自然情報講座の活動

1. 特色ある教員養成

理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー；CST）養成拠点構築事業への採択

新潟大学では、今年度より始まった理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー；CST）養成拠点構築事業（試行的取組）に採択された。CST 事業とは、小・中学校教員の理数教育における指導力向上を図ることを目的として、大学と教育委員会が連携し、養成プログラムの開発・実施や地域の理数教育における拠点の構築・活用などを通じて、地域の理数教育において中核的な役割を担う教員を養成するものである。教育学部自然情報講座を中心に、特色ある CST 養成および養成拠点構築事業 2 年目を実施した。CST 養成プログラムでの連携機関における実習について列挙する。

i) 新潟市教育委員会との連携

・「理科支援員研修会」補助

ii) 新潟市立総合教育センターとの連携

・市民向け講座「天文教室」の補助、「標本教室の補助」

iii) 新潟県立自然科学館での工作教室ボランティア参加・企画運営実施

・20名の CST 候補生（1 期生、2 期生）が各自のべ 5 日以上参加

・12月12日（日）「ピーヨピーヨ水笛を作ろう」の企画・運営・実施

・12月19日（日）「色変わりグリーティングカードを作ろう」の企画・運営・実施

iv) 新潟県立燕中等教育学校での土曜講座実施

正規の授業外に位置付けられている土曜講座において、実験等を豊富にとり入れ、ICT を活用した理科授業を CST 候補生の学生に行わせた。対象は中学 3 年生であり、5 回の授業（80分×2クラス）を行った。

5月29日 物理（物体の運動）

7月10日 物理（物体の運動）

10月9日 生物（DNA の抽出）

12月4日 地学（新潟平野の成り立ち）

2月26日 化学（化学電池）



2. シンポジウムなど

(1) 公開講演会「滝川先生と考える明日から役立つ理科授業のコツ」

期 日：平成22年12月5日（日）

参加人数：約50名

(2) シンポジウム・ワークショップ

「第3回 理科好きの子どもを育てる、伸ばすには～家庭・地域・学校間の連携を目指して～」

期 日：平成23年2月19日（土）13：00～17：30

2月20日（日）10：00～12：30

参加人数：のべ約60名

趣 旨：2年間の CST 候補生の活動報告および日本各地での理科教育にかかわる活動・研究・実践例などの情報交換の場として、シンポジウムを開催した。

（主催）新潟大学教育学部（共催）新潟市教育委員会（後援）新潟県立自然科学館

3. 学生による長岡市立日吉小学校 科学教室

平成20年度より長岡市立日吉小学校にて、後期の科学クラブ（対象は小4～小6、約20名）を月に1度実施している。今年度は理科教育、物理の3、4年生が中心になって実施した。

内容と実施日：①スライム（9月29日）、②音の不思議（10月13日）、③空気の不思議（11月24日）、
④振り子の不思議（12月8日）、⑤色変わりグリーティングカード（1月26日）

○ 学校教育課程保健体育専修

1. 学生企画による第29回体操発表会での作品発表

保健体育・スポーツ科学講座所属学生企画により、各種グループを支援し12月4日（土）新潟市鳥屋野総合体育館において開催された第29回体操発表会（主催：新潟県体操研究会 協力：新潟大学教育学部保健体育科出場者）の出場に導いた。

これらは、(1)学部学生・院生グループ、(2)附属長岡小学校の発表グループ、および(3)新潟大学公開講座・新大なんでもスポーツ・プロジェクトの学外の一般市民参加者による発表グループである。下表の通り出場者は300名、発表作品数は18作品である。この企画は、毎年続けられており、今回も、発表会運営に加わるとともに、「自分たちが授業で作った作品」「授業で習った作品」および「先輩達から引き継いだ作品」を1500人の観客の前で発表し、大成功をおさめた。

第29回体操発表会 発表作品名 人数（学生企画・指導・支援）

作品名	団体名
エアロビクス体操（MIXDANCE）	新潟大学教育学部保健体育・スポーツ科学講座 有志
ボールを使った体操（Lumier Object）	
手具なしの体操（Aesthetic）	
ラート運動	
手具なしの体操（ブギーワンダーランド）	
メディンボールを使った体操（ウルトラソウル）	
ジャズ体操（DAY&NIGHT）	新潟大学教育学部保健体育・スポーツ科学講座 4年生
手具なしの体操（thesis）	
メディンボールを使った体操（学園天国）	新潟大学教育学部保健体育・スポーツ科学講座 体育・スポーツ教育学教室
輪を使った体操（ボンキッキ体操）	新潟大学教育学部 小学校体育受講生有志
手具なしの体操（生きてることってすばらしい）	
手具なしの体操（人間っていいな）	
輪を使った体操（チキチキバンバン）	新潟大学教育学部附属長岡小学校 リズム体操クラブ
縄を使った体操（仕事はじめ）	新大なんでもスポーツ・プロジェクト リズム体操コース
手具なしの体操（アウティ アリコスキ）	
ボールを使った体操（Under the sea）	
手具なしの体操	新潟大学教育学部公開講座 受講生
縄を使った体操	



附属長岡小学校リズム体操クラブの練習



新大なんでもスポーツ・プロジェクト
リズム体操コースの発表



新潟大学保健体育・スポーツ科学講座学生の演技



○ 保健体育・スポーツ科学講座

1. 新潟県の子どもの体力づくり

新潟県教育庁の行った平成22年度文部科学省委託事業「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」に基づく子どもの体力向上支援事業の委託を受けて次の事業を行った。

(1) 子どもの体力向上支援委員会（委員長）

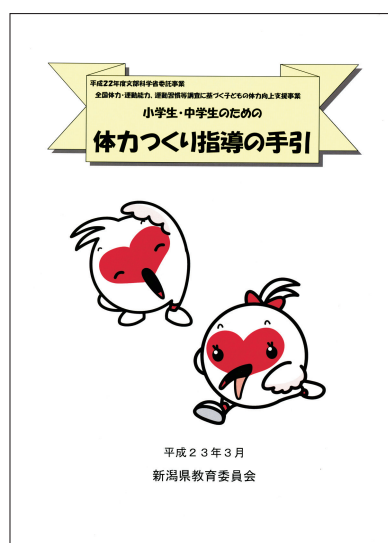
(2) 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果等の分析と「新潟県体力・生活実態調査」との比較分析

これらの結果の集計を行う際、学部学生、大学院生（現代社会文化研究科修士）の協力を得るとともに、結果について専門科目スポーツ科学研究演習Ⅰ、Ⅱ、大学院の授業・演習のなかで検討を行い、報告書にまとめて県に提出した。また、新潟県教育庁の許可を得て、これらのデータの一部を卒業論文作成に利用した。これらの成果の一部は「新潟県の学校体育」「体力づくり指導の手引き」に引用されている。

(3) 平成22年度文部科学省委託事業 全国体力・運動能力、運動習慣等調査に基づく子どもの体力向上支援事業

「小学生・中学生のための 体力づくり指導の手引き」の作成。

県内小・中学校に配布。初任者研修などで活用される予定。



(4) 子どもの体力向上指導者養成講習会実技講習の実施（主任講師：上越市、長岡市、新潟市、魚沼市で実施）

開催期日	開催地区	会場	参加人数
8月2日（月）	中越地区	魚沼市立小出小学校	45名
8月3日（金）	下越地区	新潟市立葛塚小学校	66名
8月4日（月）	上越地区	上越市立直江津小学校	87名
8月11日（火）	中越地区	長岡立豊田小学校	55名

4回の指導者養成講習会には健康スポーツ科学課程学生、同課程を経て現代社会文化研究科修士在籍の大学院生が補助員として参加し、資料作り、実技補助等で帯同した。

本事業は平成23年度も継続して行う予定である。

2. 健康体力づくり指導者養成、子どもを教える指導者のための研修会

(1) 新潟県広域スポーツセンター・財団法人新潟県体育協会 平成22年度生涯スポーツ指導者講習会

新潟県広域スポーツセンターが主催し、毎年県内各地区で実施している生涯スポーツ指導者講習会のうち、地域の高齢者の健康・体力づくりの理論実技について研修を行い指導者としての資質を高めることを目的として講習を行った。対象は市町村生涯スポーツおよび健康・体力づくり行政担当者、体育指導委員、生涯スポーツ関係団体指導者等50名。

実施期日：平成22年7月24日（土）～7月25日（日）両日とも9：30～15：00

実施会場：糸魚川市役所、糸魚川市亀が丘体育館

(2) 文部科学省委託事業「地域スポーツ人材を活用した運動部活動等推進事業 子どもを教える指導者のための指導力向上研修会」

新潟県教育委員会が文部科学省委託事業として地域で子どもたちにスポーツを指導する方の指導力向上を図ることを目的として開催した。対象は子どもたちにスポーツ指導をしている教職員、保護者、スポーツ指導員など30名。

実施期日：平成22年11月24日（水）19：00～21：00

実施会場：新発田市カルチャーセンター

○ 芸術環境創造課程音楽表現コース

<2010年度 音楽科特色ある教育活動>

平成22年11月23日（祝）に、新潟大学附属病院会議室において、教育学部音楽科授業「舞台芸術」及び「合唱」の授業成果発表を行った。

この企画は、入院患者さんに快適で潤いのある療養生活を提供したいという病院の意向と、日頃の授業等に成果を発表・披露する場を求めている学部の意向が一致し、平成17年度初めて開催されて以来今回が5回目の開催となる。当日は患者さんやそのご家族など延べ100人が来場した。

最初に女声合唱のための唱歌メドレー『ふるさとの四季』、その後キャスト、スタッフ総勢30人の学生によりオペレッタ『夜だけまほう使い』が公演された。

またプログラムの中にくみなさま一緒に歌いましょう>ステージを設け『もみじ』『ふるさと』を客席の皆さんと一緒に合唱すると会場は一緒に口ずさんで歌われた方がおられるなど、和やかな雰囲気に包まれた。またオペレッタの楽しい場面では客席から大きな笑い声が聞こえたり、最後の場面では拍手の波が起きるなど、大変な盛り上がりだった。

今回も来場者及び病院側のスタッフから喜びの言葉、感謝の言葉が寄せられ学生達にとっても今後の活動を行う上で大きな励みとなった。



特色ある教育活動（音楽表現コース）

新潟市西区役所、また新潟県文化振興財団との連携により、大学と地域連携プロジェクト「Lien 2010」を大学カリキュラム（「音楽マネジメント1、2」並びに「課題研究」）の中で、マネジメント実習も兼ねて行った。3年計画で行われるこのプロジェクトは、新潟市西区内で音楽を通じた地域交流を目的とするもので、初年度の今年は13名の学生スタッフの発案・運営による6企画8公演が行われた。これらは、プロジェクトの核となる最終公演を中心に立案され、学生たちの手によって運営されて、教職員や地域の方々延べ1200人にご参加いただいた。

今年度の中心企画は、ニューヨークフィルの教育部門に属するティーチング・アーティスト（以下「NYTA」と略記）たちの方法論を取り入れた Special Concert であり、12月5日に黒崎市民会館で行われた。この公演ではニューヨークフィル事務局の協力を得て、上席ティーチング・アーティストでヴァイオリン奏者の David Wallace 氏と打楽器奏者の Justin Hines 氏を新潟市に招き、新潟大学教育学部音楽科教員並びに新潟市を中心に広く演奏活動を続けている地元のアーティストたちが共演するコンサートを、学生スタッフが企画運営した。この Special Concert や、それに先立つ各関連企画では、NYTA のコンサートで重要な核となる entry point（リズムや音階といった、その楽曲に固有の切り口）という概念を学生たちが応用し、台本を含むすべての流れを NYTA の指導の基に制作し、出演者への交渉・依頼などプロジェクト全体の運営を行った。

また、関連企画では学生スタッフが4つのグループに分かれ、それぞれに Part 2 「音のキセキ～History of Music～」、Part 3 「Door～扉で繋がる音楽の世界～」、Part 4 「見チャイ！聴きチャイ！逢いチャイコ！～弦で奏でるチャイコフスキー～」そして学校訪問演奏を企画運営し、子どもを含む多くの聴衆と共に多彩なコンサートを楽しんだ。（Part 1のみ新潟市西区役所の企画）

SPECIAL CONCERT

NEW YORK PHILHARMONIC TEACHING ARTIST

2010年12月5日(日)

14:00開演 (13:30開場)

黒崎市民会館ホール

★入場無料
★全席自由(4歳以上・先着300人)
★申し込み方法は、裏面をご覧ください。
10月3日(日)から申し込み開始です。

主催★Lien(リアン)実行委員会
(新潟市西区役所、財団法人新潟県文化振興財団、新潟大学教育学部)
監修★くらしに音楽プロジェクト
助成★アメリカ音楽振興財団、財団法人日本音楽財団
企画・運営★新潟大学教育学部「音楽学・音楽マネジメント」研究室

SPECIAL CONCERT ニューヨークフィル ティーチング・アーティスト

NEW YORK PHILHARMONIC TEACHING ARTIST

当日のプログラムは、あなたが決めます！

9～11月に行われた複数コンサート3つの中から、アンケートで選ばれた人気の高い曲目を再演し、新たなステージを演出いたします。関連企画についての詳しい情報はHPをご覧ください。どんな曲が演奏されるでしょうか？当日をお楽しみに！！

NYTA (ニューヨークフィル ティーチング・アーティスト) ★★★★★★★★★★

アメリカでもっとも伝統あるオーケストラであるニューヨークフィルは、教育部門を構え独自の метод論を用いて、アメリカ国内をはじめ日本全国でプログラムを展開しています。演奏レベルの高さに加えて、子ども達との対話や語りかけを通して音楽の楽しみ方・感じ方を提示する手法は「演奏者を身近に感じる」との評判を受け、今や世界中から注目を集めています。

今回は2名のティーチング・アーティストを迎え、新潟で活躍する演奏家とともに、新しい「ワークショップ型」のコンサートをお届けします。

Lien 2010 ★★★★★★★★★★

私たちは過去3年間、新潟大学音楽科と新潟市西区役所が連携して、西区・黒崎において音楽を通じた地域交流・まちづくりを行ってきました。今年からは西区全体にその範囲を広げ、新しい絆を築きたいと思えます。Lien(リアン)とはフランス語で「絆」という意味です。今年(11)新潟県文化振興財団のご協力を得て、ニューヨークフィル ティーチング・アーティストの方法論を取り入れた新しいコンサートを通して、新潟でのティーチング・アーティストの育成を兼ねて、西区のみならず「音楽の絆」で繋がっていかれたらと願っています。

申込方法 電話のみ受付です ★★★★★★★★★★

新潟市役所コールセンター
025-243-4894へ
受付時間 8:00～21:00 (年中無休)

「[リアンスペシャルコンサート]希望とし、氏名・電話番号・駐車場利用の有無・保育の有無(お子さんの住所・氏名・性別・生年月日)をオレターにお伝えください。10月3日(日)からお申し込み受付を開始いたします。
※保育は生後10カ月以上の未就学児先着9人(11月24日締切)です。

会場案内 ★★★★★★★★★★

黒崎市民会館
〒950-1115 新潟県西区黒崎909-1 TEL: 025-377-1420

新潟大学教育学部「音楽学・音楽マネジメント」研究室
TEL: 025-262-7048
E-mail: yokosaki@ed.niigata-u.ac.jp
URL: http://www.ed.niigata-u.ac.jp/yokosaki/

新潟市西区地域課
TEL: 025-264-7193
E-mail: chikieki@city.niigata-lp.jp
URL: http://www.city.niigata-lp.jp/info/nishi/

このプロジェクトは、2009年に6名のNYTA（とその協力者）を新潟市（「りゅーとぴあ」劇場）と附属長岡小・中学校に招いて行われた交流コンサートを発展させたもので、附属学校の生徒や父兄、教育学部の教職員や学生、並びに地域の方々1300名余りが彼らの方法論に触れて啓発を受けたところが原点となっている。2011年度、2012年度とその方法論に触発された学生たちが自ら新しい方法論を立案し、広くコンサートを実施していく予定である。詳細については、横坂研究室ホームページ（<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~yokosaka/>）に各企画の報告文やチラシ、プログラム等が掲載されているので、そちらをご参照いただきたい。また、新潟日報等の地元紙はもちろん、全国的な弦楽専門誌『ストリング』（2011・3号）でもこの試みは大きく取り上げられた。



特色ある教育活動（芸術環境創造課程・音楽表現コース、学校教員養成課程・音楽教育専修）

【地域参加】

平成21年度に引き続き、NPO 法人佐渡芸能伝承機構のコーディネートにより佐渡市豊岡地区の集落の春の祭り「鬼太鼓」に学生14名が参加した。平成22年3月29日～4月3日まで豊岡地区の公民館に宿泊し、毎夕の練習に参加した。昼間は和太鼓集団「鼓童」の研修所を訪れ、研修生たちとともに太鼓の学習を行うなどした。4月10日は地元の方々と祭りの前日準備を行い、祭り当日は午前7時～午後8時まで地元の方々と祭りを行った。5月3日は佐渡太鼓交流館（たたこう館）の皁月まつり（主催 鼓童文化財団）にゲストとして豊岡の方々を参加し鬼



鬼太鼓

太鼓の太鼓と舞を披露した。さらに今年は8月13日～15日の豊岡地区夏祭りにも参加、竹細工など豊岡特産の竹を生かした「村おこし」にも携わった。また、佐渡市からの要請で「新たな「魅力ある佐渡の旅」の提案～女子大生による着地型ツアープラン発表会～」にも参加した。8月～11月にかけて13名の学生が佐渡を旅行し、観光を体験しながらレポートをまとめた。これらは他の参加校、東京農業大学、相模女子大学、新潟県立大学とともに平成23年2月19日佐渡島開発総合センターで発表を行った。

昨年に引き続き、9月14日～15日、秋田県横手市金澤神社で開催された掛唄大会に出場した。秋田県の無形民俗文化財である掛唄は、即興的に自分の思いを歌い合うもので、音楽教育の表現分野と深い関わりがある。学生は、事前に横手市立金沢中学校の総合学習も参観し、郷土の音楽・文化学習の現状を学んだ。大会は徹夜で行われ、学生は、地域の人々と一体となって歌を掛け合い、交流を重ねるとともに、地域の音楽文化への理解を深めた。

【学校現場】

平成22年9月21日、村上市立西神納小学校を訪問、演奏会を催した。題目はオペレッタ「ピーターパン」であった。これらは学生たち平成21年の12月から準備を重ねて本番に至るもので、特に西神納小学校はここ何年か続けて行っているためか子どもたちも楽しみにしている。この演奏会の特色は単にオペレッタを演じて終わりではなく、演奏会の前に行う学生による授業を通して、子どもたちが参加して楽しむ演奏会であることである。もちろん学生たちの授業は普段の教育課程に沿ったものであり、現場の先生方の協力の下行っている。本年も大変好評であった。また、こちらも昨年に引き続き11月16日には附属幼稚園に出前演奏を行った。チャイコフスキー作曲「くるみ割り人形」を音楽科学生による臨時的室内オーケストラと幼児教育科学生によるペープサートで子どもたちに披露した。たいへん好評であった。

○ 芸術環境講座：造形表現コース及び美術教育での特色ある活動

●日本海夕日コンサートでの造形表現

2010年8月に新潟市小針浜で開催された野外コンサートでの空間演出の取り組みである。25周年を迎え節目となる2010年のテーマは「message」。出演は、スターダストレビュー・山本潤子・KAN・地域の子ども達によるキッズコーラス。日本海に刻々と沈みゆく美しい夕日、それを背景にした大迫力のステージ。このようなロケーションの中で、アーティストたちのライブパフォーマンスを演出するステージ装飾、地域の子ども達と築いた造形ワークショップ作品、グッズのデザイン、アーティストとキッズコーラスとの競演においては、練習から取材に立ち会いメイキングビデオ編集などを手がけた。



●アートクロッシングにいがた2010

「空想動物遊園 in 寺尾」9月23日（木）～9月26日（日）

新潟市西区（寺尾中央公園）を舞台にしたアートプロジェクトの実践を行なった。市民の憩いの場である公園を舞台に、造形ワークショップを中心としたプログラム10企画程を集合させ地域に入り込んで築いた芸術教育プロジェクトである。芸術の新たな可能性の模索と地域の活性化を広く発信していくこと、社会とアートの新しい関係を築くことを目的とした取り組みであり、ここでは、図画工作や美術の授業では展開しにくい題材や新しい素材、寺尾中央公園という場だからこそできる内容の企画を立ち上げた。期間中の鑑賞者は3千人を超え、地域の人々と共有する場を、アートを用いた表現手法で築くことが出来た。



○ 学習社会ネットワーク課程の特色ある教育活動

学習社会ネットワーク課程では、授業の一環として地域社会及び海外の大学と連携した特色ある教育の場を提供し、学生の多様な学習活動を支えています。一昨年度から学部間交流協定に基づく交換留学制度が発足し、今年度は北京師範大学珠海分校から15名、北京聯合大学から4名の留学生を迎えました。本課程からも北京師範大学珠海分校に3名、北京聯合大学に3名の学生が留学し、国際交流が日常のこととなっています。留学生に触れることで在生も自ずと視野も広がります。来年度前期には中国から12名、新潟から9名が留学と、新潟からの留学生の数が大幅に増えました。

- (1) 学社連携事業「まなび屋」は、学習社会ネットワーク課程と新潟市西地区公民館との共同企画で、毎週木曜日に地域の子も達に、学校とは異なる学びの場を提供しています。毎週の活動やイベントの企画、運営、渉外、学びの時間など、事業実施に関わる様々な活動を学生主体で行っています。スタッフには、学習社会ネットワーク課程の学生だけでなく学校教育課程、人文学部、法学部の学生達も加わっており、様々な専門分野の学生が集う「学生にとっての学びの場」にもなっています。毎年報告集を発刊し、今年は第10集を発刊しました。
- (2) 社会教育主事インターンシップは、社会教育への理解を深めるために生涯学習行政の場での実務を経験する企画です。平成12年度から実施し、新潟市他の教育委員会のご協力を得て、今年で11年目を迎えます。毎年報告書を作成し、成果を公表しています。今年度の事業の概要は、前項の「企業等インターンシップ」で報告しました。
- (3) 本課程では、毎年中国を訪問して中国の大学生とテーマを決めて討論するとともに、社会・文化・歴史施設の見学をして国際理解を深める機会を提供しています。一昨年度は本課程の取組が、文部科学省の教育GPに採択され、昨年度は取り組みを拡大し、大学生向け教材と小学生向け教材を用意しました。今年度は平成22年度新潟大学学長裁量経費教育プロジェクト事業「多文化共生マインド具現化プロジェクト」の支援を受け、日中の学生が協力して中国の社会教育施設の調査を行う、という、これまでの大学教育では夢としか考えられない企画が実現しました。北京師範大学珠海分校の先生方の全面的な協力のお陰です。

企画の実現には、学生の自主的な取り組みが不可欠です。学生の役割分担による協力は、訪中前の準備段階でも、中国での交流会でも発揮されましたが、特に、両大学で学んだ留学生が学生交流に果たした役割は大きいものがありました。両国をつなごうと一生懸命な姿は、それを目にした学生たちの向学心と意欲を刺激し、留学希望者が倍増、という嬉しい効果ももたらしました。

- (4) 北京師範大学珠海分校との交流のもう一つの形は、両大学の教員による訪問集中講義です。北京師範大学珠海分校の王維榮先生と張豹先生が2011年2月12日に来県。2月14日から熱のこもった講義をしてくださいました。最終日には試験二加えて英語でのレポートを提出し、勉強の成果を示しました。

新潟大学側からは、3月14日から17日まで、4名の教員が珠海分校で集中講義を行いました。多くの受講生が集まって活発な質疑応答がなされ、充実した内容の授業になりました。

次年度も更に充実した内容の交流をおこなおうと考えています。

2.11 高校生対象体験講義

第1回 平成22年6月19日（土）

講 義 題 目	講 師	参加人数
広報委員による全体説明会	長 澤 正 樹	201
自然の中の化学と薬学（2）	鎌 田 正 喜	
ピアノの歴史	田 中 幸 治	
一対一の対応	高 野 道 夫	
文字をうまく書くコツ	岡 村 浩	
密室殺人事件と情報理論	垣 水 修	
「発達障害」に見る脳の不思議、心の不思議	有 川 宏 幸	
“メタボ” ってな～に	山 崎 健	

第2回 平成22年7月24日（土）

講 義 題 目	講 師	参加人数
広報委員による全体説明会	長 澤 正 樹	71
江戸時代の終わりに樺太を開拓した新潟県人松川弁之助について	麓 慎 一	
「靴」と「健康」～あなたの健康を足元から見直そう～	杉 村 桃 子	
グローバル・ヒストリーについて考える	児 玉 康 弘	
パスタを用いた立体構成	橋 本 学	
スポーツによるウェルネスライフ	小林 日出至郎	

2.12 中・高校生及び保護者の大学見学

本学部では、今後も積極的に高校生等への説明会を開催するとともに、より身近に学部を感じてもらえるような新たな企画を設定し、優秀な人材の獲得に全力を注いでいこうと考えており、近年は大学から高校へ講師を派遣する「出前講義」も行っている。

見 学 校	対象者等	開催日	担 当 者
群馬県立伊勢崎高校	2年28名	6月16日	神 林 信 之
新発田中央高校	2年60名	7月7日	宇 野 哲 之
小千谷高校	2年46名	7月9日	鎌 田 正 喜
附属新潟中学校	120名	7月13日	五十嵐学部長、児玉学校長 松 浦 良 治、本 間 伸 輔
新発田南高校	1年74名	7月23日	横 山 知 行
十日町高校	1年84名	8月19日	伊 藤 克 美、田 中 幸 治
郡山高校	1年100名	9月30日	松 澤 伸 二
埼玉県高等学校 PTA 連合会	42名	10月18日	和 田 信 哉

3 就職支援

3.1 教員志望学生向け特別講座

本学部就職厚生委員会では、教育・学生支援機構全学教職支援センターと連携し、学生の就職支援の一環として、本年度も次のとおり、特別講座「学校教育の現状と課題」を実施した。

講師は、全学教職支援センターの岸本賢一客員教授、江端周二特任教授、渡辺伸栄特任教授、星 勉 特任教授である。

(1) 目的

講座の受講を通して、学校教育に対する多面的な教育観を培うとともに、教育現場の実際を知り、多様な教育課題解決のために「何をなすべきか」を考え、教師を目指す意欲を醸成する。

(2) 実施内容

① 前期分

対象学生：学部4年生、大学院2年生

開講時間：16：25～17：55、場所：204教室

(ただし、第2回は15：30～18：00、第12回は9：00～12：00)

	実施日	テーマ (内容)	講師
1	4月22日(木)	特別講座・教員採用検査についてのガイダンス	岸本・江端・渡辺・星
2	5月6日(木)	教員採用検査についての説明(新潟県教委・新潟市教委からの説明)	岸本
3	5月13日(木)	教育小論文作成の講義、演習	江端
4	5月20日(木)	教育小論文の添削指導	岸本・江端・渡辺・星
5	5月27日(木)	筆答検査問題対策	江端・渡辺
6	6月3日(木)	個人・集団面接、模擬授業の講義・演習	岸本
7	6月24日(木)	個人・集団面接、模擬授業の演習・個人指導	岸本・江端・渡辺・星
8	7月1日(木)	第1次検査へのまとめ心得1	岸本
9	7月8日(木)	第1次検査へのまとめ心得2	岸本・江端・渡辺・星
10	7月15日(木)	第1次検査の反芻と第2次検査のガイダンス	岸本
11	7月22日(木)	第2次検査に向けての対策	岸本
12	8月12日(水)	第2次検査に向けての直前対策	岸本・江端・渡辺・星
13	11月4日(木)	採用候補者への指導・助言	岸本
14	11月11日(木)	臨時教員採用希望者への指導・助言	岸本

② 後期分

主たる対象学生：学部3年生、大学院1年生、開講時間：16：25～17：55、場所：204教室

	実施日	テーマ (内容)	講師
1	10月14日(木)	特別講座のガイダンス・教員採用検査に向けての心構え	岸本・江端・渡辺・星
2	10月21日(木)	学校教育の現状と課題	岸本・星
3	11月11日(木)	採用検査に向けての小論文作成指導Ⅰ	江端
4	11月18日(木)	採用検査に向けての筆記検査・模擬授業・面接等の指導	渡辺
5	11月25日(木)	生徒指導上の課題とその解決に向けて	新潟市教育委員会学校支援課 大江指導主事
6	12月2日(木)	学校現場が期待する教師像	新潟市立小針小学校 高橋校長
7	12月16日(木)	採用検査に向けての小論文作成指導Ⅱ	江端
8	1月13日(木)	採用検査の実際と体験発表(採用内定学生・新採用教員)	岸本
9	1月20日(木)	教育行政が期待する教師像	新潟市教育委員会教職員課 遠藤課長
10	1月27日(木)	本講座のまとめと次年度特別講座に向けて	岸本

3.2 教員採用選考検査対策（体育実技）練習会

今年度新たに、教員採用試験対策として本学部独自の教員採用選考検査（体育実技）練習会を6回開催した。

「教員採用選考検査対策（体育実技）練習会」

6月25日から7月30日の毎週金曜日、第二体育館において「教員採用選考検査対策（体育実技）練習会」を催した。教員採用試験の実技科目（マット運動・鉄棒など）について、教員指導のもと練習を行った。参加者は28名であった。

参加者からは、「器械運動は場所や道具を自分でそろえることができないので練習する機会が設けられて非常にありがたかった」「細かく先生に指導していただいた」と評価する一方、「もっと練習したかった」「二次試験の直前までやってほしかった」等の意見も出されたため、来年度以降の検討課題としたい。



3.3 公務員志望向けガイダンス

今年度は本学部独自の公務員試験対策講座を1回催した。

「公務員就職を希望する3年生のための就職セミナー」

10月19日に「公務員試験内定者からの合格体験談発表とグループワーク」を催した。来年度公務員就職を希望している人が、今年内定を果たした先輩方の体験談を聞き、質疑応答を行った後、少人数のグループに分かれグループ討議を行った。

発表者は、学校教育課程から2名、学習社会ネットワーク課程から1名、参加者は16名であった。

今年度より内容にグループワークを加え、学生同士の意見交換が活発に行われた。

参加者からは、「内定者の話を聞いて不安が少し解消された」「生の体験談が聞いてよかった。自己理解を深めていきたいと思った」「モチベーションがあがった」等の意見が聞かれ、概ね好評であった。



3.4 一般企業志望学生向けガイダンス

今年度は本学部独自の一般企業志望学生向けセミナーを4回開催した。

第1回「民間企業就職を希望する3年生のための就職セミナー」

10月18日に、「民間企業内定者からの合格体験談とグループワーク」を催した。既に民間企業への就職活動を開始、あるいは開始しようと考えている人が、今年内定を果たした先輩方の体験談を聞き、質疑応答を行った後、少人数のグループに分かれグループ討議を行った。

発表者は、学校教育課程1名、学習社会ネットワーク課程2名、参加者は32名であった。

参加者からは、「先輩の体験が参考になった。具体的でよかった」「内定者の体験とそれを補足するプロの話によって信頼できる情報を得た」と評価する一方、「さまざまな業種の話が聞きたい」「首都圏での就活体験が聞きたかった」等の意見も出されたため、来年度以降の検討課題としたい。



第2回～4回「就職何でも相談会」

10月～12月の各月1回、「就職何でも相談会」を催した。このセミナーは、まだ就職の決まっていない、進路に迷っている4年生を対象に、就職活動での悩み等を相談できる場を提供する目的で開催した。

講師には、本学キャリアセンター特任専門職員川端由美子さん（キャリアコンサルタント）を招き、参加学生との個別相談を行った。

各回ともに参加者が少なく、学生への周知方法の見直しや相談会参加への働きかけの充実を行うこととしたい。

3.5 臨時教員希望者への就職支援

教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、以下の支援事業を行った。

(1) 「臨時採用教員希望者登録ガイダンス」

日時：平成22年11月11日（木）16：25～17：55

臨時教員採用を希望する学生に対し、臨時採用教員希望者登録ガイダンスを行い「臨時教員採用希望調書」を配付した。また、岸本賢一全学教職支援センター客員教授より、教員としての心構えや希望調書に記入する自己PRの表現方法など、現場のエピソードを交えた具体的な話があった。

なお、臨時教員採用の情報等については、登録者のメールアドレス（学務情報システムのメールアドレス：在籍番号@mail.cc.niigata-u.ac.jp）に随時送信を行った。

(2) 平成23年度臨時教員採用希望者名簿の作成と教育委員会等への送付

「臨時教員採用希望調書」（登録者数150名）をもとに、名簿を作成した。この名簿は、新潟県教育委員会、各教育事務所、各市町村教育委員会及び学生から希望のあった県外の23自治体の教育委員会に送付し採用を依頼した。

また、下記の県内教育委員会および県外12自治体教育委員会（埼玉県・さいたま市・群馬県・栃木県・山形県・福島県・長野県・山梨県・東京都・秋田県・宮城県・仙台市）へは、副学部長等が訪問し、採用を依頼するとともに、教員採用及び本学部卒業生の動向について情報収集や学部への要望聴取等を行った。

記

訪問先	期日	担当者	
		教員	事務職員
新潟県教育委員会 新潟市教育委員会 下越教育事務所	12月14日（火）	宮蘭副学部長 岸本客員教授 星 特任教授	實川全学教職支援事務室 教職支援係員
中越教育事務所 上越教育事務所	12月14日（火）	岡村就職厚生委員長 江端特任教授 渡辺特任教授	佐藤全学教職支援事務室 教職支援係長

3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス（3年次生向け）

教員採用試験対策として本学部独自に次年度教員採用試験受験予定者向けガイダンスを開催した。

「教員採用試験受験者向けガイダンス」

10月4日に次年度教員採用試験の受験予定者を対象にガイダンスを開催した。岡村就職・厚生委員長等より教員採用の状況、教員採用試験のための準備対策等についてのガイダンスおよび昨年度教員採用試験合格者の体験発表を行った。参加者は247名（他学部参加者を含む）。

ガイダンス後は学習支援ボランティアの申込者数が増える等、教員を目指す意識・意欲の向上が感じられた。



4 学部 FD・SD

1. 第1回

日 時 2010年6月3日(木) 15時00分～17時00分

会 場 大会議室

参加者 教員58名 職員5名

テーマ

○「教員養成制度改革と学士課程・修士課程教育の課題その1」

教育職員免許状の改正動向に関する情報交換、および望ましい教員養成制度の在り方と、学士課程・修士課程教育の課題について報告・検討会をおこなった。

①「教員養成の延長(民主党法案)について」 八鍬友広

②「教育学研究科の方向性について」 五十嵐尤二

③「財務省予算執行調査について」 五十嵐尤二

2. 第2回

日 時 2010年7月15日(木) 16時30分～18時00分

会 場 大会議室

参加者 教員46名 職員5名

テーマ

○「教員養成制度改革と学士課程・修士課程教育の課題その2」

前回に引き続いて、望ましい教員養成制度の在り方、および学士課程・修士課程教育の課題について検討した。今回はとくに、現代社会文化研究科との関係についての経過報告と意見交換をおこなった。

①「現代社会文化研究科の改組について」 岡野 勉

②「教育学研究科の将来構想について」 五十嵐尤二

③「教員養成に関する報道と世論」 五十嵐尤二

3. 第3回

日 時 2010年10月14日(木) 14時40分～15時10分

会 場 大会議室

参加者 教員80名 職員10名

テーマ

○「アカデミック・ハラスメントの防止について」

アカデミック・ハラスメント防止用DVDを放映し、鑑賞した。

4. 第4回

日 時 2010年12月2日(木) 14時40分～15時40分

会 場 大会議室

参加者 教員80名 職員10名

テーマ

○「困難をかかえた学生の支援と相談について－頼より支援に向けて－」 中村協子

学生支援相談ルームの中村協子先生を講師としてお迎えし、困難をかかえた学生の支援と相談に関する

講演をいただいた。新たに開設された「学生支援相談ルーム」の位置づけと目的が紹介され、現代の若者の特徴、教員が学生相談をするメリットとデメリット、学生対応における基本的な心構え、および相談を受ける際のポイントなどについてレクチャーを受けた。

5. 第5回

日 時 2010年12月20日（月） 16時00分～17時20分

会 場 106教室

参加者 教員10名 学生10名

テーマ

○『研究教育実習』の現状と課題

研究教育実習の現状と課題について、学習会を開いた。とくに教育学研究科大学院生の修士論文作成と現場での研究授業実施との関係について、具体的な実践事例報告をふまえ、現場の教員もお招きして、検討会をおこなった。

- ①「今年度の『研究教育実習』について」 神林信之
- ②「大学院授業『教材開発の実際と課題』と『研究教育実習』」 児玉康弘
- ③「実践事例報告」 大学院生

5 地域貢献

5.1 12年研修

新潟市教職12年経験者研修「教科指導研修」

1. 平成22年度の教職12年経験者研修「教科指導研修」の日程等の概要

新潟市立総合教育センターと教育学部との連携事業である教職12年経験者研修「教科指導研修」（以下「12年研修」と称する）は、今年度で7年目を迎えた。

(1) 「12年研修」の日程と受講者・指導者等

今年度の「12年研修」の活動日程は下表の通りである。

日程	研修内容	場所等
5月6日	センター・学部の事前打合せ	教育学部
6月4日	「前研修」講座 午後	センター
7月30日	「教科指導研修」1日目	センター・学部
8月16日	「教科指導研修」2日目	センター・学部
8月23日	「教科指導研修」3日目	センター・学部
9月～12月	受講者毎の「校内授業研修」	受講者の各学校
12月24日	「研修のまとめ」	代表者の学校等

5月の事前打合せで、新潟市立総合教育センター（新潟市教育委員会を含む）指導主事と教育学部担当教員とが一同に会して、日程や研修指導体制等についての確認を行った。

夏季休業中の「教科指導研修」は、3日間に亘って実施され、各受講者の授業課題の検討、学習指導計画の検討、学習指導案検討、

模擬授業等に取り組んだ。それを踏まえて、9月以降に、グループ毎の代表者授業研究、全受講者の勤務校での校内授業研究を実施した。また、12月24日に研修のまとめを実施した。

教科毎の受講者数、グループ数、指導者数等は、以下の通りである。

教科名	受講者数	グループ数	指導主事等数	学部教員数
国語	8	2	2	2
社会	7	2	2	2(4)
算数・数学	9	3	3	3
生活	2	1	1	0
英語	6	2	2	2
理科	8	2	2	4
音楽	8	2	2	2
図工・美術	2	1	1	4
技術	2	1	1	1
体育・保体	7	2	2	4
特別支援	2	1	1	1
合計	61	19	19	25(27)

11教科等に61名の受講者があり、3～4名程度のグループに編成し、そのグループに原則として指導主事と学部教員がペアで参加する体制を取っている。

理科や図工・美術、体育・保体のように、グループ数よりも多くの学部教員の参加・協力がみられる教科もある。社会では、常時2名が参加し、受講者の研修内容に応じて随時参加する教員が2名あった。一方、今年度、生活には学部教員が参加できなかった。

受講者数が少なくなり、少人数グループ編成と指導主事・学部教員のチーム・ティーチングが実現でき、受講者一人一人の課題解決に向けたきめ細かな指導

が行き届くようになっていく。研修に対する受講者の評価は年々高まっているが、今年度は「A評価；100%」という評価となった。

2. 「12年研修」の新たな取り組みに向けてー「研修」と「養成」の連携の試みー

今年度、新たな試みとして取り組んだことが一つある。それは、9月から12月に実施される代表者授業研究や全受講者の校内授業研究において、学部生74名と大学院生15名（合計89名・延べ）が授業参観と授業検討会に参加する機会を試行的に設けたことである。中堅に差し掛かる受講者の研究授業とその授業検討から学部生・大学院生が積極的に学ぶ機会として位置づけようという試みである。「研修」と「養成」の連携・協力の一つの具体的な取り組みである。次年度以降に充実・発展させたい。

5.2 市民・教員を対象とした公開講義

新潟大学新潟駅南キャンパス（通称：ときめいと（旧：CLLIC））等開設公開講座

教育学部は、生涯学習・生涯教育を学部の使命としていることから、「ときめいと」や教育学部校舎等を使用して様々な講座を開講し、生涯学習社会に生きる人々の一助となるよう心がけている。

小学生から自然に親しむキャンプ・スキー教室、発表会が楽しいピアノ講座など、本学部ならではの講座等を開設した。

以下に、今年度の実施状況を示す。

新潟大学新潟駅南キャンパス（ときめいと）等開設公開講座一覧

講 座 名	
一般 教養 講座	大人のためのピアノ講座～もしもピアノが弾けたなら～
	第6回ペーパークラフトでひろがる算数・数学の世界
	小中学生キャンプ教室
	小中学生スキー教室
	親子でとりくむ楽しいリズム体操A・B
	中高齢者を対象としたエクササイズプログラミングのワークショップⅡ －対象者の運動継続を図る計画的・機能的エクササイズの実態－
	中高齢者の身体機能改善プログラム－着実に効果を出すために－
教員・ 教員志 望者等 講座	新潟大学免許法認定公開講座「学校臨床心理学特論Ⅴ」
	新潟大学免許法認定公開講座「キャリア教育特論」
	新潟大学免許法認定公開講座「英語教育学特論」
	新潟大学免許法認定公開講座「算数・数学科教育特論」
	新潟大学免許法認定公開講座「声楽特論」

5.3 教育委員会との連携事業

○ 教育委員会との連携協定

・ 新潟県教育委員会との教育懇談会

新潟県教育委員会と11回目となる教育懇談会（H22.12.15）を開催した。

新潟県教育委員会との連携協定を締結する方向での合意をはじめ、「新潟県が期待する教員の資質・能力について」、「教員採用の考え方について」「現職教員の大学院における研修を促進する方策について」など活発な情報・意見交換を行った。

・ 見附市教育委員会と連携事業

平成17年3月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、見附市教育委員会との連携事業として、市内の小学校8校、中学校3校に学習支援（自然教室、水泳教室、補充教室、部活動指導、実験、工作教室）のためのボランティアを61人（延べ162人）派遣した。

また、学力調査活用アクションプラン推進事業に係る学習支援及び校内研修指導等が行われた。

・ 三条市教育委員会との連携事業

平成17年8月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、三条市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア（市内の小学校4校）」へ4人、「三条市科学フェスティバル」へ18人、「中学校音楽祭」へ3人、「放課後子ども教室」へ3人を派遣した。

また、三条市教育委員会と3回目となる運営協議会（H22.11.9）を開催して、連携協力の現状及び成果並びに課題等が報告された後、今後の連携について意見交換を行った。

5.4 心のケア

平成22年度 長岡市教委「心のケア推進事業」へのカウンセラー派遣実績報告

	実施日時	講師	対象者	参加数
1	研修会名：介助員等研修会	長澤 正樹 (教育学部教授)	・介助員 ・特別支援介助員 ・特別支援教育アシスタント	108人
	日時：7月30日（金）9：00～12：00			
	会場：長岡市教育センター			
	演題：「通常学級における特別支援教育と補助教員の役割」			
2	研修会名：心のケア推進者研修会	神村 栄一 (教育学部准教授)	・管理職 ・心のケア推進者	85人
	日時：10月14日（木）15：00～16：30			
	会場：長岡市教育センター			
	演題：「学校での心のケア活動の経験から～校内支援体制充実のために～」			

5.5 新潟大学免許法認定公開講座

平成22年度 新潟大学免許法認定公開講座実施状況

講座名	学校臨床心理学特論Ⅴ	キャリア教育特論	英語教育学特論	算数・数学科教育特論	音楽特論
講師名	神村 栄一 (教育学部准教授)	松井 賢二 (教育学部教授)	加藤 茂夫 (教育学部教授)	山田 和美 (教育学部教授)	松浦 良治 (教育学部教授)
受付期間	平成22年 6月28日～平成22年 7月14日				
実施日程	8月3日、4日 8月5日、6日	8月10日、11日 8月17日、18日	8月21日、22日 10月16日、17日	9月4日、5日 9月11日、12日	9月25日、26日 10月9日、10日
回数・時間数	4回・30時間				
募集人員	20人	20人	20人	20人	20人
受講者数	15人	11人	3人	7人	10人
単位修得者	15人	11人	3人	6人	10人

5.6 新大なんでもスポーツプロジェクトについて

今年で5回を迎える「新大なんでもスポーツプロジェクト」。新潟大学教育学部保健体育スポーツ科学講座では、地域の方々へ「豊かなスポーツライフ」の実現に貢献できないかと考え、スポーツプロジェクトに取り組んでいる。通称「なんスポ」の目的は、スポーツ本来の楽しさを味わいながら、将来の豊かなスポーツライフづくりとスポーツを通じた地域交流を促進し、さらには新潟大学保健体育スポーツ関連大学生、大学院生のスポーツ実践指導力の向上としている。今年度も様々なスポーツイベントを企画し、レクリエーションキャンプ、最新トレーニング、マラソン、リズム体操、スイムクリニック、卓球教室、健康ウォーク、ソフトバレー、ソフトボールを実施した。また、大学施設を会場として地域住民の交流を図ると共に、スポーツを接着剤に親子間のふれあいを高めること、学生中心の進行によって学生の運営能力を実践の中で学ぶことを目的としている。

参加者も年々増加し、今年は13コースを開講して各合計44回に述べ902名が参加していただきました。なんでもスポーツへの参加者が増えている理由については、地域における豊かなスポーツライフづくりへの貢献によりリピーターも毎年増えていったこと、参加者の口コミによる活動の伝達が功を奏したと考える。次年度に向けてよりよい「なんスポ」を目指すためには、市民の実態に応じた各コースの内容や指導法の改善・工夫、さらには地域との連携を深めて各種イベントとの連携も重要になるであろう。

5.7 講演会・演奏会・発表会など

(書道)

- 驥鳳会書展 新潟市芸術文化会館 (2010.8) - 西日本出身の在校生が出品
- 芙蓉会書展 新潟市芸術文化会館 (2010.9) - 東日本出身の在校生が出品
- 書道科展 新潟県民会館 (2011.1) - 書表現コース在校生全員が出品
- 卒業修了制作展 新潟県民会館 (2011.2)

5.8 委員等就任状況

《主な委員就任状況》

新潟県・新潟県教育委員会

- 『新潟県男女平等社会推進審議会委員』
- 『新潟県大規模小売店舗立地審議会委員』
- 『新潟県文化財保護審議会委員』
- 『新潟県立近代美術館協議会委員』
- 『環境審議会委員』
- 『新潟県教科用図書選定審議会委員』
- 『新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会委員』
- 『新潟県住宅防火対策推進会議委員』
- 『キャリア教育実践研究会委員』
- 『新潟県教育職員特別免許状検定協議会委員』
- 『新潟県消費生活審議会委員』
- 『青少年健全育成審議会委員』
- 『新潟県青少年問題協議会委員』
- 『小学校教育研究会学習指導改善調査研究事業スーパーバイザー』
- 『新潟県教育委員会スクールカウンセラー』
- 『新潟県にぎわいのあるまちづくり審議会委員』
- 『新潟県キャリア教育パイロット事業協力者会議座長』
- 『新潟県公害審査委員会委員』
- 『新潟県地域家庭教育推進協議会委員』
- 『新潟県国土利用計画審議会委員』
- 『新潟県労働委員会委員』
- 『新潟県立荒川高等学校平成22年度特別支援教育総合推進事業「高等学校における発達障害支援モデル事業」に係るスーパーバイザー』
- 『新潟県立正徳館高等学校協議会委員』
- 『発達障害者支援体制整備検討委員会委員』
- 『特別支援教育総合推進事業運営協議会委員』
- 『新潟県子どもの体力向上支援委員会委員』

新潟市・新潟市教育委員会

- 『新潟市社会教育委員』
- 『新潟市都市計画審議会委員』
- 『新潟市健康づくり推進委員会委員』
- 『新潟市歴史資料及び文学資料選定委員会委員』
- 『新潟市環境審議会委員』
- 『新潟市文化財保護審議会委員』
- 『新潟市美術館運営協議会委員』

『にいがた住まいの基本計画推進有識者会議委員』
『新潟市景観アドバイザー』
『新潟市発達障がい者支援体制整備検討委員会委員』
『就学指導委員会委員』
『精神医療審査会委員』
『佐潟学術研究審査会委員』
『新潟市特別教育サポートセンター専門家チーム委員』
『にいがた市民環境キャンパス推進委員』
『(仮称) こども創造センター基本計画検討委員会委員』

長岡市・長岡市教育委員会

『小中連携のあり方を考える懇談会委員』
『長岡市人権教育・啓発推進計画策定委員会委員』

新発田市

『新発田市景観アドバイザー』
『新発田市子ども発達相談事業スーパーバイザー』

燕市教育委員会

『ICT活用普及促進協議会委員』

阿賀野市教育委員会

『就学指導委員会委員』

佐渡市

『佐渡市環境アドバイザー』

文部科学省

『中央教育審議会専門委員（大学分科会）』
『科学技術・学術審議会臨時委員』
『中学校キャリア教育の手引き作成に関する協力者会議委員』

国際大学スポーツ連盟（FISU）理事

国立教育政策研究所

『学力の把握に関する研究指定校事業に係る企画委員』

日本学術会議

『日本学術会議連携会員』

上越教育大学

『上越教育大学 CST 養成事業実施委員会委員』

(財) 會津八一記念館

『評議員』

(財) 新潟県中越大震災復興基金

『新潟県中越大震災復興基金理事』

(財) 尾瀬保護財団

『理事』『評議員』『尾瀬賞運営委員』

(財) 日本学校保健会

『「先生がはぐくむ子どもの生活習慣」編集委員会委員』

(財) 放射線利用振興協会

『コーディネーター』

阿賀野市社会福祉協議会

『こどものことばとこころの相談室 学童部・幼児部 スーパーバイザー』

全国健康保険協会新潟支部

『健康づくり推進協議会委員』

東日本高速道路（株）

『新潟ハイウェイ懇談会委員』

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会

『総務委員会委員』『第一チャレンジ部会委員』『派遣委員会委員』

6 国際交流

6.1 学部教育の国際化事業

本学部では、学習社会ネットワーク担当教員が中心となって、平成13年から継続して中国との教育・研究交流を続けてきました。交流を始めて10年になりますが、毎年、新しい企画で交流の充実を図り、現在では、(1)短期間の中国訪問による教育交流、(2)交換留学制度を利用した半年あるいは一年間の留学、(3)教員が相互に相手方大学を訪問して出張講義、と多彩な交流に発展しています。

(1) 中国訪問による教育交流

今年度も11月10日から17日まで、学生30名、大学教職員9名、附属学校教員6名が参加して中国を訪問しました。ちょうど尖閣諸島での日中間のトラブルがあり、出発前にはいろいろな方から旅行の安全を心配されたのですが、実際に訪問してみると実に平穩無事な、楽しく実りある旅行になりました。

11日に北京空港に到着し、空港まで迎えにきてくれた留学生たち（中国からの留学生と新潟大学からの留学生）と懐かしい再会。前期に新潟に滞在していた中国人留学生の顔を見つけて、学生たちの緊張がすっと解けました。9月から北京に留学している教育学部の学生の流暢な中国語にも吃驚しました。12日は歴史文化施設見学。抗日記念館の見学で戦争の残酷さにショックを受け、盧溝橋でその歴史に思いを馳せた後、午後は北京聯合大学の学生の案内で故宮を見学しました。半日行動を共にした学生たちはすっかり仲良くなり、夜の食事会は大いに盛り上がりました。13日は北京郊外の見学で雄大な景色を楽しみ、明の十三陵もその大きさに驚きました。どの場面でも、両大学の留学経験者が大活躍しました。

13日夜には珠海市に移動。14日は、北京師範大学珠海分校の学生と新潟大学学生が7、8人単位のグループを組み、社会教育施設の調査を行いました。学生たちは行く先々で大歓迎を受け、丁寧な説明を受け、豪勢な昼食をご馳走になり、本当に楽しんだようです。各グループに留学経験のある学生が一人ずつ入り、通訳を勤めました。15日は、両大学の学生がそれぞれ数ヶ月かけて作成したDVD教材を使った交流会です。学生たちの努力と成長がはっきりと見える、とてもよい発表でした。ここでも留学経験者が大活躍しました。16日は珠海分校のすぐ近くの公立小学校で、小学生相手に授業を行いました。7月から準備を始め、附属新潟小学校の先生方から指導を受けながら何回か小学生相手に予行練習をした上での授業です。緊張しながらも無事、授業を終えることが出来ました。珠海でももちろん毎晩、賑やかな交流会です。北京師範大学珠海分校の先生方、北京師範大学附属学校の先生方、学生の皆さんが大勢参加して下さって毎回80名をこす大人数での大宴会。日本語、中国語、英語が飛び交い、日本語と中国語の歌が飛び出す楽しい会になりました。

この国際交流事業は、203頁の立派な報告書にまとめられました。報告書には珠海分校の学生によるレポートもおさめられています。

(2) 交換留学制度を利用した半年あるいは一年間の留学

2008年に、本学部と、北京師範大学珠海分校教育学院ならびに北京聯合大学国際交流学院との間で、学部間交流協定に基づく「学生交流に関する覚書」が交わされました。締結時には、北京師範大学珠海分校との留学生枠は年間2名でしたが、2009年度からは5名に拡大。さらに2010年度後期からは10名に拡大することが決まりました。同じく北京聯合大学との留学生枠は年間1名でしたが、2010年度からは2名に拡大しました。両大学に留学する際には、入学金ならびに授業料が免除されます。

北京師範大学珠海分校からは前期に5名の学生、後期に10名の学生が、それぞれ半年の予定で本学部に留学してきました。北京聯合大学からは、今年度前期に留学生2名、後期に2名が新潟を訪れ、それぞれ

6ヶ月間の日本語・日本文化研修をうけました。どの留学生もみな、教育学部の学生と積極的に交流し、新潟が大好きになって帰国しました。

本学部からは、今年度前期到北京師範大学珠海分校には1名、北京聯合大学に2名の学生が、後期には北京師範大学珠海分校には4名、北京聯合大学に1名の学生が留学しました。皆、中国語が目覚ましく上達し、たくましくなって帰ってきました。2011年度の留学生として、北京師範大学珠海分校に6名、北京聯合大学に3名が、中国の新学期である3月に間に合うよう出発しました。皆、元気で頑張っています。

(3) 北京師範大学珠海分校と間の交換出張講義

北京師範大学珠海分校と間の出張講義も、今年度で2回目になります。昨年度に行われた珠海分校の先生方による出張講義は2009年2月に新潟大学で行われました。そのお返しにあたる新潟大学からの第一回目の出張講義として、2009年6月初旬に教育学部の教員3名が珠海に赴き、「現代日本の教育事情」と題する授業を開講しました。100名をこす受講生が集まり、質問の殺到する活発な授業でした。日本からの留学生も授業に参加しましたが、「新潟大学ではこんなに活発な授業は見たことが無い」とびっくりするほどの活気です。その留学生は、「一年間留学したけれど、もう半年留学を続ける」と決め、来春から北京聯合大学に留学することになりました。彼の姿を見て、「同じ2年生なのに…私はこの一年間、新潟で何を勉強していたんだろう…」と一念発起した2年生3名が、3月から北京師範大学珠海分校に留学しました。

珠海分校の先生による出張講義は、2010年2月に行われました。教育学の王維榮先生と幼児教育学の張豹先生が新潟大学にいらして、30名を越す学生に熱心に授業してくださいました。英語を交えた中国語の授業で、珠海分校で1年間中国語を学んで帰国したばかりの学生が中心となって通訳を務めました。

2010年3月には珠海分校で、新潟大学教育学部の4名の教員による集中講義（第二回目です）が行われました。数週間前に珠海分校に留学したばかりの教育学部学生も顔を見せ、楽しい再会になりました。授業には多くの受講生が参加する活発な授業で、いつもながら中国学生の熱気に圧倒されました。

このような交換授業の取り組みは、新潟大学では初めてのことで、全国的にも珍しい取り組みです。中国の大学の先生が新潟大学で定期的に授業をし、その授業に参加することで学生たちが多くの刺激を受け、留学生との交流が自然に深まります。「国際交流」と声高に言わなくても、ごく当たり前の姿として交流の実績が積み重ねられていくことを、嬉しく思っています。

6.2 学術交流（研究者の派遣・受入れ）

・研究者派遣

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰国日	費用の出所
教授	五十嵐 久人	韓国・中国	アジア大学スポーツ交流プロジェクト会議に出席	2010/4/14	2010/4/19	学長裁量経費
准教授	牛山 幸彦	韓国・中国	アジア大学スポーツ交流プロジェクト会議に出席	2010/4/14	2010/4/19	学長裁量経費
准教授	足立 幸子	米国	国際読書学会（IRA）第55回年次大会及び米国教育研究学会（AERA）2010年年次大会に出席	2010/4/24	2010/5/4	本人負担
教授	長岡 成夫	米国	第6回臨床倫理相談国際会議に出席	2010/5/8	2010/5/16	本人負担
教授	五十嵐 久人	中国	国際大学スポーツ連盟実行委員会及び国際総合競技会準備状況の調査	2010/5/11	2010/5/16	国際大学スポーツ連盟
准教授	世取山 洋介	スイス	国連子どもの権利委員会による新自由主義改革評価の調査	2010/5/24	2010/5/30	科研費 基盤研究（C）
准教授	佐藤 亮一	ドイツ	ヨーロッパ合成開口レーダに関する国際会議 EUSAR2010で研究発表	2010/6/6	2010/6/11	研究経費特別研究経費
准教授	相庭 和彦	中国	北京師範大学珠海分校教育学院との訪中事業打ち合わせ及び出張講義	2010/6/10	2010/6/15	基盤教育経費
教授	大浦 容子	中国	北京師範大学珠海分校教育学院との訪中事業打ち合わせ及び出張講義	2010/6/11	2010/6/16	基盤教育経費
准教授	雲尾 周	中国	北京師範大学珠海分校教育学院との訪中事業打ち合わせ及び出張講義	2010/6/11	2010/6/17	基盤教育経費
准教授	大庭 昌昭	ノルウェー・フランス	第11回国際水泳学会出席およびスポーツ体育研究所（INSEP）視察	2010/6/13	2010/6/23	本人負担
准教授	麓 慎一	ロシア	「19世紀後半における露清関係の変容と日本の北東アジア政策」の調査	2010/6/19	2010/7/2	科研費 基盤研究（B）
教授	鈴木 賢治	イタリア	第8回残留応力に関する欧州会議に出席	2010/6/21	2010/7/2	科研費 基盤研究（C）
准教授	杉澤 武俊	米国	第75回国際計量心理学会2010年度大会に出席	2010/7/5	2010/7/11	科研費 若手研究（B）
准教授	上石 圭一	スペイン	紛争処理に関する国際ワークショップに出席	2010/7/6	2010/7/11	科研費 基盤研究（C）
教授	郷 晃	ルーマニア	Contemporary creative camp “Danube and Dobrogea Christian” におけるダーヴェント修道院のための彫刻制作、他	2010/7/8	2010/8/6	渡航費：基盤教育経費、基盤研究経費 滞在費：ルーマニア芸術家ユニオン、ダーヴェント修道院
准教授	佐藤 亮一	カナダ	2010 IEEE AP-S 国際シンポジウムで研究成果の発表	2010/7/13	2010/7/19	科研費 若手研究（B）

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰国日	費用の出所
准教授	興 治 文 子	クロアチア	国際物理オリンピック引率	2010/7/15	2010/7/26	日本物理学会
教授	福 原 晴 夫	中国	溪流河川森林の調査	2010/7/16	2010/7/23	科研費 基盤研究 (B)
准教授	相 庭 和 彦	中国	科研費研究テーマの打ち合わせ	2010/7/16	2010/7/18	科研費 基盤研究 (B)
准教授	下 保 敏 和	米国	第10回精密農業会議に出席	2010/7/18	2010/7/22	本人負担
准教授	佐 藤 亮 一	米国	地球科学・リモートセンシング 国際シンポジウム (IGARSS) で研究発表	2010/7/24	2010/8/1	研究経費特別研究経費
教授	長 岡 成 夫	シンガポール	世界バイオエシックス会議及び アジア・バイオエシックス会議 に出席	2010/7/26	2010/8/3	本人負担
教授	松 浦 良 治	オーストリア	声楽発声法及びドイツ歌曲の研究	2010/8/5	2010/9/3	本人負担
准教授	堀 内 隆 行	南アフリカ共和国	1920、30年代南アフリカ共和国 のカラードに関する史料調査	2010/8/7	2010/8/14	基盤研究経費
教授	福 原 晴 夫	南アフリカ共和国	第31回国際理論応用陸水学会大会 に出席	2010/8/10	2010/8/23	本人負担
准教授	麓 慎 一	中国	「19世紀後半における露清関係 の変容と日本の北東アジア政策」 の調査	2010/8/18	2010/8/25	科研費 基盤研究 (B)
准教授	興 治 文 子	フランス	物理教育国際会議 GIREP-ICPE 2010に出席	2010/8/21	2010/8/28	科研費 若手研究 (B)
准教授	足 立 幸 子	オーストラリア	学校及び図書館で用いられている 読書評価の実態調査、他	2010/8/22	2010/9/1	科研費 若手研究 (B)
准教授	牛 山 幸 彦	韓国	2010日本・韓国大学生卓球交流 戦に日本学生卓球連盟代表選手 団女子監督として参加	2010/8/23	2010/8/27	渡航費：日本学生卓球 連盟 滞在費：大韓民国学生 卓球連盟
准教授	足 立 幸 子	スペイン	国際児童図書評議会国際大会 研究発表及び研究者訪問	2010/9/8	2010/9/20	本人負担
准教授	石 垣 健 二	イタリア	国際スポーツ哲学会で研究発表	2010/9/13	2010/9/20	科研費 若手研究 (B)
教授	五十嵐 尤 二	ギリシャ・ドイツ	厳密くりこみ群国際会議での 成果発表及び研究打ち合わせ	2010/9/14	2010/9/25	科研費 基盤研究 (C)
准教授	麓 慎 一	ロシア	資料調査・チャーホフとサハリ ンに関する国際学術会議に 出席、他	2010/9/18	2010/9/25	科研費 基盤研究 (B)
教授	五十嵐 久 人	中国	アジア大学スポーツ連盟総会及 び理事改選	2010/9/20	2010/9/24	渡航費：日本オリ ンピック委員会 滞在費：アジア大学 スポーツ連盟
准教授	世取山 洋 介	ベルギー	ルーベン大学での合同研究会に 出席および研究打ち合わせ	2010/9/22	2010/9/30	科研費 基盤研究 (B)
教授	五十嵐 久 人	モンゴル	第4回世界学生ボクシング選手 権大会に運営統括委員長として 出席	2010/10/2	2010/10/11	第4回世界学生ボク シング選手権組織委員会

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰国日	費用の出所
教授	伊野 義博	ブータン	民族音楽研究（ブータンのツェチュ、チョンモの研究）	2010/10/23	2010/11/1	本人負担
教授	滝澤 かほる	スペイン	2010国際大学体育課教育学会 AIESEP（10/26-29）で研究発表	2010/10/25	2010/10/31	基盤研究経費
教授	長岡 成夫	米国	「ナンシー・クルーザンの遺産」会議に出席	2010/11/10	2010/11/15	本人負担
准教授	丹治 嘉彦	連合王国	地域芸術研究（古美術研究旅行）の学生引率のため	2010/11/10	2010/11/18	基盤教育経費
准教授	橋本 学	連合王国	地域芸術研究（古美術研究旅行）の学生引率のため	2010/11/10	2010/11/18	基盤教育経費
教授	大浦 容子	中国	北京連合大学及び北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2010/11/10	2010/11/17	学長裁量経費
教授	相庭 和彦	中国	北京連合大学及び北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2010/11/10	2010/11/17	学長裁量経費
准教授	上石 圭一	中国	北京連合大学及び北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2010/11/10	2010/11/17	学長裁量経費
准教授	雲尾 周	中国	北京連合大学及び北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2010/11/10	2010/11/17	学長裁量経費
准教授	杉澤 武俊	中国	北京連合大学及び北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2010/11/10	2010/11/17	学長裁量経費
准教授	中島 伸子	中国	北京連合大学及び北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2010/11/10	2010/11/17	学長裁量経費
教授	伊野 義博	中国	北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2010/11/11	2010/11/17	学長裁量経費
教授	松井 賢二	中国	北京師範大学南奥実験学校との教育研究交流	2010/11/14	2010/11/17	学長裁量経費
教授	五十嵐 久人	ベルギー	国際大学スポーツ連盟（FISU）理事会に出席	2010/11/16	2010/11/22	国際大学スポーツ連盟
准教授	足立 幸子	米国	米国読書会議／リテラシー研究学会第60回年次大会に出席	2010/11/30	2010/12/5	科研費 若手研究（B）
教授	五十嵐 久人	タイ共和国	アジア大学スポーツ連盟理事会（ASEAN との融合の検討）	2010/12/16	2010/12/19	渡航費：日本オリンピック委員会 滞在費：タイ共和国
准教授	麓 慎一	ロシア	「19世紀後半における露清関係の変容と日本の北東アジア政策」の調査	2011/1/16	2011/1/29	科研費 基盤研究（B）
教授	五十嵐 久人	トルコ	国際大学スポーツ連盟実行委員会及び冬季ユニバーシアード運営統括のため	2011/1/21	2011/2/8	渡航費：国際大学スポーツ連盟 滞在費：冬季ユニバーシアードエルズブルム組織委員会
教授	横坂 康彦	オーストリア・イタリア	音楽マネジメント、音楽学（宗教音楽）に関する資料収集（教材）のため	2011/2/3	2011/2/11	基盤研究経費・基盤教育経費
教授	長谷川 敬三	フランス	研究集会「Non-Kählerian Aspects of complex geometry」参加及び研究打ち合せ	2011/2/19	2011/2/26	渡航費：科研費基盤研究B 滞在費：ルミニ数学研究所（CIRM）

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰国日	費用の出所
教授	伊野義博	中国(内モンゴル自治区)	内モンゴルの民謡、アンディとホラボー等の民族音楽の取材	2011/3/4	2011/3/9	本人負担
准教授	田中幸治	米国	米・サスケハナ大学音楽学部と新潟大学教育学部の学生のアンサンブルを通じた交流の指導、他	2011/3/10	2011/3/21	渡航費：基盤教育経費・基盤研究経費 滞在費：基盤研究経費
教授	相庭和彦	中国	北京師範大学珠海分校との教育研究交流の打ち合わせ	2011/3/12	2011/3/15	学長裁量経費
教授	大浦容子	中国	北京師範大学珠海分校との教育研究交流の打ち合わせ	2011/3/12	2011/3/15	学長裁量経費
准教授	雲尾周	中国	北京師範大学珠海分校教育学院との訪中事業打ち合わせ及び出張講義	2011/3/12	2011/3/19	学長裁量経費
准教授	杉澤武俊	中国	北京師範大学珠海分校教育学院との訪中事業打ち合わせ及び出張講義	2011/3/12	2011/3/19	学長裁量経費
准教授	中島伸子	中国	北京師範大学珠海分校教育学院との訪中事業打ち合わせ及び出張講義	2011/3/12	2011/3/19	学長裁量経費
准教授	工藤起来	ブラジル	アシナガバチ類の調査・採集および研究打ち合わせ	2011/3/13	2011/3/29	科研費若手研究(B)
准教授	麓慎一	韓国	「19世紀後半における露清関係の変容と日本の北東アジア政策」の調査	2011/3/14	2011/3/18	科研費基盤研究(B)
教授	長岡成夫	ドイツ	「現代医療における正義」会議に出席	2011/3/22	2011/3/31	本人負担
准教授	麓慎一	韓国・ロシア	「19世紀後半における露清関係の変容と日本の北東アジア政策」の調査	2011/3/22	2011/3/27	科研費 基盤研究(B)
教授	五十嵐尤二	ドイツ	素粒子の対称性に関する共同研究の打ち合わせ	2011/3/24	2011/3/31	補助金

・研究者受入れ

職名	氏名	所属	主たる用務	出発日	帰国日	費用の出所
教授	Vicente Cortes	ハンブルグ大学(ドイツ)	研究会「Lie変換群と複素幾何学」に出席	2010/9/24	2010/9/30	科研費 基盤研究(A)
客員教授	Dmitry Alekseevsky	ハンブルグ大学(ドイツ)	研究会「Lie変換群と複素幾何学」に出席	2010/9/24	2010/9/30	科研費 基盤研究(C)

7 附属施設の活動

7.1 附属新潟小学校

(1) 特色ある活動

① 初等教育研究の推進

附属新潟小学校では、初等教育全般にわたり、その理論と実践について研究を深めている。さらに、複式学級における学習指導の在り方を研究している。

今年度は研究主題「創造的思考力を高める授業 - 1年次研究-」の下で、指定研究授業（17回）、拡大部内研究授業や中間検討会における授業公開、初等教育研究会における授業公開等、授業公開及びその前後における学習指導案検討、授業協議会を含めた教育研究を全教科等について推進している。

その成果は、全国各地から1,500名程の参加者が集う2月開催の初等教育研究会において、また、「研究紀要 第68集 創造的思考力を高める授業」（年1回発行）、研究誌「授業の研究（F・ねっと）」（年3回発行）において公表し、地域をはじめ県内外の多くの学校に還元している。

② 教育実習生の受け入れと指導

新潟大学教育学部学生の教育実習を指導し、次代を担う教育者の育成を行うことも当校の使命の一つである。今年度の受け入れは次のとおりであった。

- a. 入門教育実習（1年生15名 6月～10月）
- b. 観察参加実習（2年生71名 9月6日～10日）
- c. 春期教育実習（3・4年生と別科生24名 6月7日～18日）
- d. 秋期教育実習（3年生、大学院生、別科生、18名 10月23日～11月5日）
- e. 研究教育実習（3年生4名 2月～3月）

③ 新潟小学校・新潟中学校・特別支援学校三校の教育理念に基づく取組

新潟地区附属三校では「知を求め共生の心をもつ創造性豊かな子どもの育成」を共通の教育理念として掲げ、「軽度発達障害児教育研究班」「附属新潟小・中学校教育課程研究班」「附属養護学校教育課程研究班」「異文化交流研究班」の四つの研究班を発足させ、学部教員と連携を深めながら活動を展開している。当校における本年度の主な取組は以下のとおりである。

- a. 小中9か年を見通した教育活動
 - ・子どもの学びを支える方法や技能を「学習スキル」としてとらえ、各学年の発達段階に応じた学年別系統一覧表を作成し、それに基づく指導、評価、改善を実施。
- b. 小学校・中学校・特別支援学校の交流活動
 - ・ペアシステムによる小学校低・中学年複式学級と特別支援学校小学部との交流活動 全12時間。
 - ・運動会におけるダンスの交流、展覧会での特別支援学校作品の展示。
 - ・小学校「附属ミュージックステーション（音楽会）」での中学校合唱部の発表（11月20日）
- c. 異文化交流活動
 - ・北京師範大学実験小学校の教員、児童生徒の訪問を受け、学校、市内各施設での交流活動を行い、相互理解、友好親善の精神を育んだ。
 - ・総合的な学習の時間を活用し、新潟大学留学生や地域における外国の方との交流を行い、外国の文化や考え方等についての理解を深めた。

④ 食に関する指導等、健康教育に関する取組

- ・体育や特別活動等の時間、給食の時間等を活用し、栄養教諭による食に関する指導を実施した。

- ・児童の生活実態調査結果を踏まえて、学校保健委員会において取組について検討を行った。
- ・健康教育の組織的な推進の在り方について、初等教育研究会においてその理論と具体とを示した。

⑤ **学びを生かした児童の主な活躍**

- ・新潟県競書大会優秀団体賞
- ・第41回ジュニア展奨励賞入賞多数

⑥ **その他**

- ・当校教員の学部授業への参加 4名5回
- ・県内外公立学校及び研究団体への職員派遣：12名21回
- ・教員研修の受け入れ：初任者研修1回、新採用養護教諭研修1回
- ・視察受け入れ：3回
- ・内地留学（長期研修）受け入れ1回

(2) **研究会、講演会の開催**

① **平成22年度複式教育研究会**

- 日時 2010年9月22日（水）
- 会場 附属新潟小学校
- テーマ 「複式教育における教育課程の編成～人間関係力の育成～」
- 内容 公開授業・全体会・授業協議会・講演
- 参加者 学部教員、県・市教育委員会指導主事、県内・県外の教諭等 約300名

② **平成22年度附属新潟小学校中間検討会**

- 日時 2010年10月1日（金）
- 会場 附属新潟小学校
- テーマ 「創造的思考力を高める授業 - 1年次研究 -」
- 内容 公開授業・全体会（研究全体概要の説明等）・分科会（個人研究の説明、協議、指導等）
- 参加者 学部教員、県・市教育委員会指導主事、県内の市内公立校校長・教頭・教諭 約70名

③ **平成22年度初等教育研究会**

- 日時 2011年2月9日（水）・10日（木）
- 会場 附属新潟小学校
- テーマ 「創造的思考力を高める授業 - 1年次研究 -」
- 内容 CCT・公開授業・全体会・授業協議会・フォーラム・講演
講演：中田 力（新潟大学脳研究所 統合脳機能研究センター長）
演題：「複雑系としての脳：ゆらぎと創造」
- 参加者 学部教員、県・市教育委員会指導主事、県内・県外の教員等、合計約1,500名

(3) **研究報告等**

① **紀要・研究誌**

- 『複式研究会紀要』
- 『研究紀要 第68集創造的思考力を高める授業』（年1回発行）
- 『授業の研究（F・ねっと）』（第176号、第177号、第178号：年3回発行）
・特集「創造的思考力を高める授業 ～「活用型」授業づくりと学習スキル・学級力～」

② **教員の著書・論文・研究発表**

- ・平山 誠 「豊かな発想をはぐくむ新しい算数学習—Do Math の指導」2010年8月 東洋館出版社
- ・榎根 浩 「豊かな発想をはぐくむ新しい算数学習—Do Math の指導」2010年8月 東洋館出版社

- ・平山 誠 「評価規準を生かした新算数科教材開発」2011年2月 明治図書
- ・若狭陽一 「理数脳をつくる授業」2010年年6月 明治図書
- ・榎根 浩 「活用力を育てる！『算数授業プラン&ワークシート30』低学年編」2010年5月 明治図書
- ・榎根 浩 「算数科・授業のすすめ『表現力はこうして育てる2年』-子どもが動く算数的活動15-」 2010年8月 東洋館出版社
- ・菅原香代 「エンカウンターで学級活動12ヶ月小学校高学年」2010年2月 明治図書

7.2 附属新潟中学校

(1) 特色ある教育活動

① 新潟地区附属三校総括目標を具現化するための取組

- a. 実践研究「未来を拓く『学ぶ力』を育む教育課程の編成－思考力・判断力・表現力を高める学び－」の推進

前次「未来を拓く『学ぶ力』を育む授業」において、生徒が問題解決を図る際に発揮する思考技能を「学ぶ力」と定義し、3年間の研究の中で、これからの社会をたくましく生き抜くために必要な「学ぶ力」を明らかにし、その「学ぶ力」を育むための手だてを明らかにした。



また、前年度までの3年間において、文部科学省研究開発指定研究で取り組んだ「学習スキル」との融合を図り、「教科の枠を越えて発揮させる『学ぶ力』」を「思考スキル」と捉え直し、様々な状況に応じて、最善の「学ぶ力」を方略として選択し、それを活用して問題を解決していく生徒の育成を図った。

これらの成果を生かし、今年度はすべての教育活動において、「学ぶ力」を用いさせることを通して、思考力・判断力・表現力を育成していくことをねらい、研究主題を「未来を拓く『学ぶ力』を育む教育課程の編成－思考力・判断力・表現力を高める学び－」とし、実践研究に取り組んだ。昨年までは、1学年のみにおいて、「学習スキルの定着を図る授業」を行っていたが、本年度から2、3学年においても、「学習スキルの汎用性を高める授業」を行い、教科や総合的な学習の探究学習にも生かせるようにした。

また、思考力・判断力・表現力を育成するために、附属新潟小学校との連携を密にし、「活用型学力を育成する9カ年間教育課程と指導法の開発」に取り組んだ。小学校で身に付けた学習技能である「書くスキル」「聞くスキル」「話すスキル」「読むスキル」「調べるスキル」「評価するスキル」「見通すスキル」を基にして、中学校で「対比スキル」「仮定スキル」「帰納スキル」等の思考技能を効果的に用いさせ、課題解決を図る生徒の育成を図った。

- b. 交流活動の推進

- ア. 中学校1年生と附属特別支援学校中等部生徒とのペアシステムによる交流活動

昨年度に引き続き、「発表会を成功させよう」という共通の目的をもって、一緒に音楽を演奏したり、踊りを創り上げたりする活動を行った。

- イ. 中学2年生の「沖縄の旅」における交流活動

平成22年2月8日（火）～11日（金）に実施した2年生「沖縄の旅」では、民泊を2泊行った。生徒は、実際の沖縄での家庭生活を体験したり、沖縄の大学生と『沖縄の問題点や悩み』について話し合ったりする中で、互いの文化の違いやよさを実感していくことができた。

② 学部と連動した活動

- a. 学校インターンシップの受け入れ

社会科の大学院生による学校インターンシップを受け入れ、実際の教育活動や学習活動に携わった。

- b. 学部教員および学生との共同研究

ア. 数学科においては、教育実習と学部講義「数学科教育法Ⅳ」を連動させて、研究教育実習にかかわる指導法の開発・実践を行った。

イ.新潟大学大学院教育学研究科の学生による複数の教科の模擬授業を参観し、指導法等について、指導・助言を行った。

c. 研究会等における学部教員との連携の強化

ア. 授業研究会では、12名の学部教員の方々から指導をいただいた。

イ. 秋の研究発表会では、協議会において、8名の学部教員の方々から指導をいただいた。

ウ. 冬の研究発表会では、協議会において、7名の学部教員の方々から指導をいただくとともに、4名の学部教員から講師として講演をしていただいた。

③ 危機管理に関する活動（小中合同避難訓練の実施）

附属新潟小学校、附属特別支援学校と同一敷地内に校舎が位置していることから、不審者が侵入した際の通報と安全確保の訓練を合同で実施した。

(2) 教育実習

① 期日、受入人数

a. 春期教育実習	6月7日（月）～18日（金）	26人（うち母校実習3）
b. 2年次観察実習	9月6日（月）～10日（金）	98人
c. 秋期教育実習	10月25日（月）～11月5日（金）	24人
d. 1年次入門実習	年間3回合計3日間	12人

② 特色ある実習内容

a. 春期教育実習、秋期教育実習において、道徳の指導案を作成し、学級ごとに検討・修正したものを基に授業を行った。

b. 2年次観察実習において、同一敷地内にある小学校を参観する機会をもった。

(3) 研究会、講演会等の実施

① 授業研究会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「未来を拓く『学ぶ力』を育む教育課程の編成－思考力・判断力・表現力を高める学び－」）

a. 5月～7月（各教科で日時を設定）全必修教科で授業研究を行った。全教科とも、学部教員や行政関係者が参観した。また、すべての教科において、公立校の教員も授業を参観し、協議会にも参加した。

b. 10月4日（月） 国語、社会、数学、理科、美術、保健体育、英語の各教科で、学部教員や行政関係者、公立校の教員とともに、中学校研究発表会に向けて授業案の検討を行った。

c. 1月（各教科で日時を設定）国語、数学、理科、音楽、技術科、家庭科、英語、地域学の各教科、取組において、学部教員や行政関係者、公立校の教員とともに、冬の研究発表会に向けて授業案の検討を行った。

② 平成22年度中学校研究発表会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「未来を拓く『学ぶ力』を育む教育課程の編成－思考力・判断力・表現力を高める学び－」）

a. 期 日 10月22日（金）

b. 内 容 授業公開（国語、社会、数学、理科、美術、保健体育、英語、学習スキル、キャリア）
授業協議会

c. 参会者 学部教員、市教育委員会指導主事、県内外教員、学生 他 合計332人

③ 平成22年度冬の研究発表会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「未来を拓く『学ぶ力』を育む教育課程の編成－思考力・判断力・表現力を高める学び－」）

a. 期 日 1月28日（金）

b. 内 容 授業公開（国語、数学、理科、音楽、技術、家庭科、英語、学習スキル、地域学）、授業

協議会、講演会

c. 講演会講師 塚田泰彦（筑波大学）、西村圭一（国立教育政策研究所）、左巻健生（法政大学）、伊野義博（新潟大学）、上野耕史（文部科学省）、高木幸子（新潟大学）、松沢伸二（新潟大学）、佐藤佐敏（上越教育大学）、宮 蘭 衛（新潟大学）

d. 参会者 学部教員、市教育委員会指導主事、県内外教員、学生 他 合計389人

④ その他

a. 初任者研修授業研修協力校

ア. 期 日 6月1日（火） 10月26日（火）

イ. 参加者 下越教育事務所管内初任者 小学校7人、中学校12人
下越教育事務所指導主事、当校職員

ウ. 内 容 授業公開（各教科）、研究協議、講話、演習

b. 学校視察の受け入れ

静岡県藤枝市立葉梨中学校（2月28日）

(4) 研究報告等

① 研究誌

a. 研究紀要 未来を拓く「学ぶ力」を育む教育課程の編成－思考力・判断力・表現力を高める学び－
（1年次） 公開授業案（10月22日発行）

b. 研究誌 冬の研究発表会 公開授業案（1月28日発行）

② 主な職員の著作・論文・研究発表等 <2010年4月～2011年3月>

- ・丸山明生 日本体育・スポーツ哲学学会第32回大会「自己と他者の『かかわり』とは何か」シンポジ
スト2010.8.22
免許更新講習会講師 「PISA 型読解力の省察・指導」講義
- ・稲生一徳 「授業実践の背景」『教育美術 No.817』2010.7（財）教育美術振興会
「これからの評価（2）」『指導と評価 vol.55』2010.10（株）図書文化
「教育美術 No.817」2010.7.（財）教育美術振興会
「指導と評価 Vol.55」2010.10（株）図書文化
「生徒指導提要対応のエンカウンター・エクササイズ12か月 中学校1年」2011.3.（株）
明治図書
『橋本光明先生退官記念実践事例集』2011.3.予定（株）日本文教出版
- ・渡部智和 「論理的に考察し表現する能力を培う授業」『数学教育6月号』明治図書
「事象を理想化・単純化すること」『数学教育10月号』明治図書
- ・関谷卓也 「算数学 立体の不思議な関係」2010.7.19 新潟日報
- ・大岩樹生 免許更新講習会講師 「学習スキル」を高める取組講義
日本教育実践学会発表 「思考技能」の取り立て指導を通して各教科への汎用性を高める
取組

7.3 附属特別支援学校

1. 特色ある活動

(1) 連携・交流活動

【新潟地区附属三校交流活動】

- ・附属新潟小学校ミュージアム作品参加（行事交流）
- ・小集団グループによる授業交流：小学部3～6年生児童と附属新潟小学校中学年複式学級児童、中学部生徒と附属新潟中学校1年生徒（授業交流）
- ・小学部1～2年生児童と附属新潟小学校低学年及び高学年複式学級児童との授業交流（授業交流）

【発達障害児教育】

- ・学部教官研究室の関係者と研究授業協議会の実施
- ・新潟県内高等学校1校へ支援協力
- ・新潟市内中学校主催支援会議への参加 17校延べ34回

【学部との連携活動】

- ・当校教員が講師として学部講義への参加：教育実習事前指導7回、延べ6人
- ・教員免許状更新講習にゲストスピーカーとして参加、2人
- ・学生ボランティアの登録：登録62人
- ・行事等の学生ボランティアの参加：運動会24人、特別支援教育研究会48人
すなやま祭20人、学部・学級行事18人

【学生との連携・交流活動】

- ・中、高等部保護者有志と学生ボランティアが運営する放課後活動（すなやまクラブ）への支援、会場提供：月2回程度開催

【地域との連携・交流活動】

- ・医学祭作品展示

【卒業生との交流活動】

- ・第1回すなやま会（同窓会）の開催。高等部行事「卒業生を囲む会」を併せて設定。
（5月9日開催。高等部生徒30人、卒業生57人、卒業生保護者13人、旧職員5人、現職員17人、学生ボランティア4人参加）
- ・第2回すなやま会の開催。学校行事「すなやま祭」開催日に併せて設定。
（2月5日開催。卒業生48人、卒業生保護者16人、学生ボランティア20人参加）

【新潟市との連携】

- ・放課後支援事業ほっぷこーんクラブ（すなやまの家・小学部プレイルームを会場に提供）
延べ約2,982人利用

(2) 特別支援教育のセンターとしての地域貢献

【特別支援教室の開設】

- ・特別支援教室：新潟市内中学生25人週1回定期支援、2人不定期支援
- ・教育相談：定期（週1回程度）は2人、不定期は多数

【教育相談・支援活動】

○研究会・研修会講師等

- ・新潟市立浜浦小学校校内研修講師 大竹 嘉則教頭（他2回）
- ・新潟市教委コーディネーター研修講師 今井 信郎（他11回）

- ・新潟市立木戸小学校校内研修講師 吉野 雄一
- ・県初任者研修講師 風間 昌幸 (他1回)
- ・新潟市立牡丹山小学校校内研修講師 横堀 壮昭
- ・新潟市立山田小学校校内研修講師 桜井 真郷 上野 保治 酒井慎一郎
- ・県立新潟養護学校駒林分校校内研修講師 根谷 聡 (他1回)
- ・新潟市立山潟中学校校内研修講師 疋田 敦士 (他1回)
- ・見附市立養護学校 廣川 豊士
- ・新潟市立新通小学校校内研修講師 牧野 統
- ・県立月ヶ岡養護学校校内研修講師 山田 澄人 (他2回)

(3) 実習生・研修生の受け入れ

【学部】

- ・入門教育実習生の受入：1年生12人（5月29日、8月26日27日、9月17日）
- ・教育実習生の受入（春期：17人 秋期：25人）
- ・養護教諭特別別科1日観察参加実習：44人（12月3日）
- ・介護等体験生の受入（年間10回、合計300人）
- ・内地留学生参観実習の受入：1人

【新潟県】

- ・教員研修の受入 初任者研修学校参観（年間2回 8人+4人 合計12人）

(4) 学校行事等

【学校行事】

- ・運動会
- ・学習発表会、鑑賞教室
- ・現場実習等（高等部：時期や個人に応じて年間を通して設定、中学部：1～3日間）
- ・校内宿泊学習（全学部実施「すなやまの家」に宿泊）
- ・校外宿泊学習（中学部・高等部：南魚沼方面）
- ・親子サマーレクリエーション（小学部PTA）
- ・もちつき大会（中学部PTA）
- ・スキー・そり教室（全学部）
- ・卒業生を送る会（全学部）

【PTA 保護者関係】

- ・小・中・特別支援学校PTA指導者研修会参加
- ・全国国立大学附属学校園 関東・北信越・東海地区PTA研修会参加
- ・新潟地区特別支援学校知的障害教育校6校PTA懇談会参加
- ・全附属北信越地区研修会長岡大会特別支援学校部会参加
- ・附属新潟3校学校保健委員会参加

【学校評議員会】

- ・学校評議員会・学校関係者評価委員会の開催 年間2回

2. 研究会、公開講座の開催

(1) 研究会

- ・第33回特別支援教育研究会（10月22日開催）

研究主題：明日をきり拓く「自己実現に向かう力」を育てる支援（第1年次）

参加者数：278名

(2) 公開講座

- ・第1回公開講座：3日にわたり3回（6月2日、6月24日、7月21日）開催

テーマ：「新潟大学方式 親のスキル訓練2010」

講師：教育学部障害児教育講座 長澤 正樹 教授、参加者数：40人

- ・第2回公開講座：7月4日開催

テーマ：「脳からわかる発達障害 ～子どもたちの『生きづらさ』を理解するために～」

講師：植草学園大学 准教授 鳥居 深雪、参加者数：220人

3. 研究報告等

(1) 研究会開催にかかわる実践発表

- ・研究紀要 第33集「明日をきり拓く『自己実現に向かう力』を育てる支援（第1年次）」

(2) 執筆依頼等に応じた実践発表

- ・横堀壮昭「特別支援教育の実践情報」2011年4・5月号 明治図書

- ・永野美希「特別支援教育研究」将来の自分の生活を設計しよう！－職業・家庭・余暇を総合して－
東洋館

7.4 附属幼稚園

(1) 特色ある活動

① 幼児教育研究の推進

附属長岡校園では、今年度より文部科学省の研究開発指定を受け、幼小中一貫教育研究に取り組んでいる。「社会的な知性を培う」を研究テーマとして、子どもたちに持続可能な社会を創り上げる資質・能力をはぐくむ12年間のカリキュラム開発を目指している。

幼小中一貫教育研究では、12年間で5つのステージに分け、発達段階を考慮したカリキュラムの編成を行ってきた。幼児教育は、3歳児から5歳児前半を第1ステージに位置付け、遊びを通して、資質・能力の「芽」をはぐくみ、「ひと・もの・こと」への愛情・愛着の形成を図ってきた。そのための環境構成の在り方がどうあるべきか、子どもの事実を基に、分析し考察を行った。

5歳児後半からは、第2ステージとして小学校1年生との「異年齢協働探究型学習」に取り組んだ。幼児の学びと小学生の「学び」を明らかにしながら、「遊び」から「学習」への円滑な接続と系統的な資質・能力のはぐくみをねらってきた。

② 教育実習生の受け入れと指導

新潟大学教育学部の教育実習生を受け入れ、次代を担う幼稚園教員を育成する。

<今年度の受け入れ状況>

- a. 入門教育実習 (1年生 12名 5月14日・27日、7月1日)
- b. 春期教育実習 (3年生 12名 6月7日～18日)
- c. 観察参加実習 (2年生 7名 9月6日～10日)
- d. 秋期教育実習 (4年生 0名 10月25日～11月5日)

③ 連携理念に基づく教育活動の推進

附属長岡校園は同一敷地内に幼稚園・小学校・中学校があり、全て廊下でつながっている。この立地条件を生かし、幼小中の一貫教育を行っている。特に幼稚園と小学校では、教育のなめらかな接続を図るため「接続期」を設けている。接続期の期間は、幼稚園5歳児11月から小学校1年生7月までである。

また、「幼・小・中合同大運動会」をはじめ、火災や地震を想定した「合同避難訓練」も行っている。

- a. 幼児と児童の遊びの交流
- b. 観客型連携による相互訪問
- c. 中学生の読み聞かせ、保育参観
小学生との遊び
- d. 年長児の小学校授業参観・合同単元開発授業
- e. 研究授業・保育への教師の相互参観
- f. 授業・保育交流

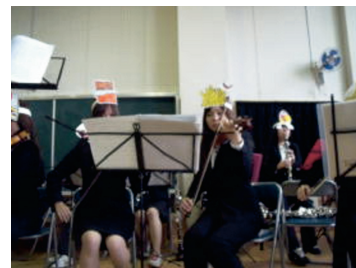


11月9日 1年生との交流

④ 学部との連携

a. 「音楽鑑賞会」

大学教員と学生による演奏会の実施



⑤ 北京師範大学南奥実験学校との交流

a. 北京師範大学珠海分校・南奥実験学校を訪問 11月15日～18日

⑥ 教育機関との連携

今年度も県教育センターと連携し、県内の幼稚園教員を対象として次の研修会を実施した。

*新潟県幼稚園等新規採用教員研修会（10名 11月25日～26日）

⑦ 楽しい園行事

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 4月：春の交通安全教室
こんにちはの会
チューリップ花絵づくり | 11月：秋の家族参加日（昔の遊び）
さくひんてん |
| 5月：悠久山春遠足 | 12月：外国の方とのふれあい会 |
| 6月：プール開き
親子バス遠足（マリニピア日本海） | 1月：お正月お楽しみ会（餅つき）
お正月お楽しみ会（カルタ取り）
そり遠足（国営越後丘陵公園） |
| 7月：七夕会 | 2月：豆まき会 |
| 9月：校舎合同運動会
秋の交通安全教室 | 3月：お別れ会 |
| 10月：悠久山探検遠足
秋のお楽しみ会
柿もぎ柿さわし | |

(2) 研究会、講演会の開催

① 平成22年度教育研究協議会

ア. 開催日 平成22年10月21日（木）幼・小・中合同研究協議会

イ. 会場 附属長岡校舎各教室・保育室・体育館等

ウ. 内容 研究主題にもとづく保育を公開し、全体発表、協議会をもつ。その後、校舎講演会を開催する。

講演 東京大学大学院教育学研究科教授 秋田 喜代美 様

演題 12年間の学びで培う「社会的な知性」

エ. 参加者 幼稚園、保育所（園）、小学校教員 100名程度

② 幼稚園視察の受入

県内幼稚園新採用教員（11月）

北京師範大学珠海分校 北京大学連合より 留学生9名が幼稚園を訪問（1月）

北京師範大学珠海分校 南奥実験学校より 幼稚園教員2名が幼稚園を訪問（2月）

③ 研究報告等

研究紀要「社会的な知性を培う」第1年次
県国公立幼稚園研究集録



園開放の様子



マリニピア日本海 親子バス遠足



お正月お楽しみ会かるた遊び



外遊び

7.5 附属長岡小学校

(1) 特色ある活動

① 初等教育研究の推進

本年度より、文部科学省研究開発指定を受け、新研究がスタートした。新研究では、「社会的知性」を培うための幼小中連携による協働探求学習カリキュラムと「知」の循環型教育システムの研究開発を目指して第1年次研究を推進した。また、幼小中12年間で5つのステージに再構成し、協働探求学習カリキュラムを開発し、新設教科「社会創造科」も実践しながら、「知」の循環型教育システムを提言してきた。

平成23年度の新学習指導要領完全実施を控え、「確かな学力」をはぐくむため、「習得」や「活用」と「探求」を関連づけて指導するカリキュラム編成と授業改善が課題となっている。こうした教育界の動向も踏まえ、「社会的な知性を培う」第1次研究を進めてきた。その目的は、互いを尊重し合う人間関係を築き、学んだ知識や培ってきた力を生かしながら、人々の暮らしや環境、社会の諸問題へ目を向け、持続可能な社会を創り上げていくために、自ら考え、判断し、実践する「社会的な知性」を培うことである。

主な研究の内容は、次のとおりである。

- ア. 小・中学校の各教科等の学習において、他との関わりの中で学びが深まる「協働型学習」の在り方を提案する。また、幼小中合同の「幼小中合同活動」を開発する。
- イ. 新教科「社会創造科」を新設し、異学年・地域・大学・博物館・高校・NPO・保護者等との連携によって、大人＝青年＝生徒＝児童＝幼児による多様な「異学年協働探究学習」カリキュラムを開発する。
- ウ. 各個人が学習を通して獲得したさまざまな経験や知識等の「知」が社会的に循環し、それが更なる創造を生み出す「知」の循環型教育システムを開発する。

これらのことを課題として研究を進め、10月の教育研究協議会で発表した。

② 教育実習生の受け入れと指導

- a. 入門教育実習（1年生） 12名 7月1日、7月2日
- b. 観察参加実習（2年生） 62名 9月6日～9月10日
- c. 春期教育実習（3・4年生及び別科生） 21名 6月7日～6月18日
- d. 秋期教育実習（3・4年生及び別科生） 14名 10月25日～11月5日

③ 連携理念に基づく教育活動

長岡地区3校園の連携教育活動のシンボリック行事として取り組んできた「幼・小・中合同大運動会」を継続するとともに、火災や地震を想定した合同避難訓練を年1回実施している。こうした行事連携にとどまることなく、日々の教育活動における連携強化も図っている。

- a. 幼稚園との連携……諸行事における園児と児童の交流、
職員との協力
 - ・幼稚園年長組と小学校1・2年生の合同授業
 - ・児童会行事等における園児、児童の交流
 - ・昼休みの交流



昼休みに幼稚園児と楽しく交流

- b. 中学校との連携
 - ・小学校教員が中学校の数学授業を担当
 - ・中学校教員が小学校の理科授業を担当
 - ・栄養教諭が中学校の選択家庭科で授業担当

④ 大学・学部との連携

- a. 「ようこそ大学の先生」……大学教員による児童向けの授業実践
 - *本年度は日程調整ができず未実施。
- b. 教育研究協議会における大学教員の授業公開
 - 1名の大学教員が、研究会当日、授業公開された。(国語)
- c. 学部生による指導補助
 - 4、5、6年児童が、体育科・滝澤研究室の学生から、延べ18回分(学生2名で6回、学生1名で6回)にわたって体操の指導を受け、成果を12月4日の「体操発表会」(主催：新潟県体操研究会新潟市鳥屋野総合体育館)で披露した。また、5、6年生のスノースクール(2月)では、体育科・大橋研究室の学生12名から、指導を受けた。
- d. 5年生の親子大学訪問
 - 大学・学部の協力を得て、キャリア教育の一環として実施した。保護者の参加多数(61名82%)。



副学長、学部長の歓迎をいただいた
大学訪問

⑤ 教育機関との連携

- a. 県教育委員会との連携
 - 小・中学校の初任者研修協力校として、提案授業及び授業協議会を開催した。
 - (6月小学校初任者10名、9月中学校初任者9名)
 - 免許状更新講習会のゲストスピーカーとして協力(国語、算数 2名)
- b. 長岡市教育委員会との連携
 - 教育学部と長岡市教育委員会との協定に基づき、市内現職教員の研修を目的とした「教員サポート錬成塾」の事業に、研修指定校として協力した。(社会科、算数科、図工科)
 - 長岡市教育センター主催の研修講座の講師として協力した。(国語科、算数科等)
- c. 公立学校との連携
 - 三条市立笹岡小学校PTA講演会「教育フォーラム」に講師として参加(栄養教諭)
 - 三条市立笹岡小学校校内研修会に講師として参加(算数1名、国語2名)
 - 長岡市立阪之上小学校校内研修会に講師として参加(国語1名)
 - 新潟市立浜浦小学校校内研修会に講師として参加(算数1名)

⑥ 中国との交流

北京師範大学南奥実験校との交流(校長、職員参加)
中国国内の公立学校での理科授業公開

⑦ 食育の推進

食に関する個別的な指導に重点を置くとともに、家庭科の授業で、T.T.で参加した。

学級指導、総合的な学習の時間や給食時のミニ講話等の場で食育の推進を図った。



T.T.で家庭科の公開授業

a. 食に関する個別的な対応の取組

食への興味を引き出す「パクンパワーボックス」(食育に関する質問箱)の運用により、児童をはじめ保護者への個別指導を行った。

b. 授業実践

「衛生に気をつけて給食の準備をしよう」(1年1組 学級活動・食育)

「給食の準備をじょうずにしよう」(1年2組 学級活動・食育)

「おおきなあれ やさいさん ～やさいとなかよし～」(2年1組、2組 生活科)

「身に付けよう！よく噛む食べ方」(4年1組 学級活動・食育) 2回実施

「おやつの上手な食べ方を考えよう」(5年1組 学級活動・食育)

「身に付けよう！よく噛む食べ方」(5年1組 学級活動・食育) 2回実施

「身に付けよう！よく噛む食べ方」(5年2組 学級活動・食育) 2回実施

「野菜のパワーを知ろう」(5年2組 家庭科)

「給食での長岡野菜の使用について」(5年生 社会創造科)

「雪の下で作る野菜のレシピ」(5年生 社会創造科)

*「学校給食の献立作成について」(中学校選択家庭科)

c. 栄養教諭による講話等

- ・毎月1回 中学生への食育講話
- ・毎月19日の「食育の日」に食育放送(給食時)
- ・学級担任への食育資料提供

(2) 研究会、講演会等の開催

① 平成22年度初等教育研究協議会事前打合せ

- a. 日時 2010年9月22日(水)
- b. 会場 附属長岡小学校
- c. テーマ 「社会的な知性を培う」(第1年次研究)
- d. 内容 全体会(研究全体概要の説明) 及び 分科会
- e. 参加者 指導者、司会者、研究協力者

② 平成22年度初等教育研究協議会～文部科学省研究開発指定校～

- a. 日時 2010年10月21日(木)
- b. 会場 附属長岡校園(幼稚園、小学校、中学校)
- c. テーマ 「社会的な知性を培う」(第1年次研究)
- d. 内容 全教科等の授業公開、授業協議会および教育講演会
 - 授業
 - ・12年間の学びをつなぐ一貫教育カリキュラムの開発
 - ・問題解決型学習における「協働型学習」の位置付け
 - ・新設教科「社会創造科」
(協議会指導者 筑波大学名誉教授 門脇 厚司 氏)
 - 講演
東京大学大学院教育学研究科教授 秋田 喜代美 氏
演題「12年間の学びで培う『社会的な知性』」
 - 一貫教育フォーラム テーマ「幼小中一貫教育の可能性と課題」
島根大学教育学部附属学校園学校主事 村上 幸人 氏
長岡市小中連携指定校 与板小学校長 山本 武 氏

三条市教育委員会 小中一貫教育推進室主幹 西山 宗彦 氏
コーディネーター 附属長岡中学校副校長 青柳 隆広 氏

e. 参加者 県内外の教員、学生、学部教員、県・市町村教育委員会指導主事、当校教員等約1,000名の参加者

③ 日本教育大学協会／全国国立大学附属学校連盟／全国国立大学附属学校 PTA 連合会主催

北信越地区総会・実践活動協議会 長岡大会

a. 日 時 2010年11月11日（木）副校園長会（市内巡検、研修会・協議会等）

11月12日（金）教育活動・授業公開、協議会、全体会・総会等

b. 会 場 附属長岡校園（幼稚園、小学校、中学校）、「ホテルニューオオタニ長岡」
（*副校園長会 県立歴史博物館、蓬平温泉「和泉屋」）

c. テーマ 「附属学校園の使命・役割をいかに果たすべきか」

d. 内 容 保育・授業公開、協議会および全体会・総会、情報交換会・懇親会

e. 参加者 300名 *下條文武新潟大学長、生田孝至新潟大学理事・副学長等参加

(3) 研究報告等

① 紀要・研究誌等

a. 『研究紀要 社会的な知性を培う 第1年次研究』（年1回発行）

b. 『子どもと授業』（年2回発行 発行部数850部 購読者数約600名）

第65号 特集「新学習指導要領 全面実施直前、今、目指す子どもの姿」

第66号 特集「新学習指導要領 幼小中12年間で培いたい子どもの力」

② 教員の著書・論文・研究発表等

a. 寺井 昌人

論文発表「豊かな発想をはぐくむ新しい算数学習－Do Mathの指導－」東洋館

研究発表「発想を豊かにし、乗法の意味理解を深める学習指導」

第92回全国算数数学教育研究（新潟）大会 2010.12

b. 相田 巧

北京師範大学南奥実験校での教育懇談、現地公立校での理科授業公開

論文発表「初等教育理科」2010.7月号

c. 平澤 林太郎

研究発表「粒子についての基本的な見方を高める授業デザイン～小学校6学年「燃焼の仕組み」の実践から～」臨床教科教育学会全国大会（群馬大学）

論文発表「生活場面に適用できる科学的な概念を創りあげていく学びの指導－6学年「電熱線の発熱のきまりを探ろう！」－『初等理科教育』2010.4月号 農文教

論文発表「小学校理科 私の新単元アイデア(1)～(6)」6ヶ月連載 教育新聞 2010.5.17～10.11発行 教育新聞社

論文発表「特集 教室中がエーッと驚く“からだ”の不思議 理科小ネタ『生命維持装置を実感を持って理解する授業モデル』」理数脳をつくる授業 2010.6月号 明治図書

d. 多田 和幸

論文発表「豊かな言語活動が拓く 国語単元学習の創造」2010.日本国語教育学会 東洋館出版社（分担執筆）

研究発表 新潟大学教育学部国語国文学会 パネリスト

論文発表「新研究 「社会的な知性を培う」の概要」 「子どもと授業」2010.8 65号

e. 佐藤 満

研究発表 全国算数・数学教育研究発表会新潟大会

論文発表「表現力はこうして育てる」－2年「三角形と四角形」－2010.8 全国算数授業研究会
東洋館出版社（共著）

論文発表「評価規準を生かした新算数科教材開発」－2年「長さ」－2011.2 明治図書（共著）

f. 渡邊 喜代子

研究発表 全国国立大学附属学校連盟養護教諭部会第45回研究協議会（群馬大会）での実践発表

(4) その他

① 危機管理に対する活動

a. 不審者侵入対応避難訓練（7年目）

職員の対応訓練と児童の避難訓練

（指導・協力：長岡警察署生活安全係）

b. 緊急電話連絡・メール配信訓練

c. 防犯用携帯ベル支給（新入児童全員）

d. 水泳授業監視員の配置

② いじめ防止に関する活動

a. 学部教員との連携による教育相談体制の充実

③ 食に関する指導

a. 栄養教諭による食育相談の充実

④ PTA 組織の活性化

a. 父親の参加を促す事業

「日曜参観」、「ふぞく百年の森整備作業（184名参加）」、「地域懇談会」



大勢の父親が参加した日曜参観、
ふぞく百年の森整備作業

7.6 附属長岡中学校

1. 特色ある教育活動

(1) 文部科学省研究開発学校指定

平成22年度より、「社会的な知性を培う」を研究テーマとし、12年間の学びをつなぐ「一貫教育カリキュラム」の開発に着手した。子どもと子ども、子どもと地域とがともに学びを創りあげる「協働型学習」を核とし、新教科「社会創造科」を含めた各教科・領域によって「持続可能な社会」の形成者のはぐくみをめざし、研究を進めている。

<社会創造科>

「社会的な知性」の構成要素に含まれる4つの資質・能力として「自己推進力」「人間関係構築力」「問題解決力」「開発力」を設定し、それらをはぐくむための教科として「社会創造科」を新設した。

「異年齢協働探究型学習」では、校園内の児童生徒のみならず、NPO、行政、地域の専門家等を交流相手や講師とするとともに、訪問先や学校等での学習において互恵関係を築き、持続可能な社会を実現するための活動を創り出すカリキュラムを展開している。

(2) ユネスコスクール

ユネスコスクールとは、文部科学省が積極的に推奨し、ユネスコ憲章に示された理想を実現するための実践に取り組む学校を登録、認定するものである。本研究では「持続可能な社会」を標榜することから申請が受理され認定を受けた。具体的には社会創造科における郷土長岡と大都市東京とを比較するテーマ追究学習（第1学年）と、比較対象を沖縄に広げた同様の追究学習（第2学年）を中心に取り組んだ。生徒が設定した視点を基に、郷土と他地域との比較から「持続可能な社会」の在り方について、実態と課題、その解決方法について学習を深めている。

2. 教育研究協議会

(1) 平成22年度教育研究協議会

- ① 期 日 平成22年10月21日（木）
- ② 会 場 附属長岡校園（幼稚園、小学校、中学校）
- ③ テーマ 「社会的な知性を培う」（第1年次）
- ④ 内 容 授 業 社会創造科（小中合同授業）、各教科、領域
一貫教育フォーラム（島根大学教育学部附属学校園、与板小学校、三条市教育委員会）
講演会 演題 12年間の学びで培う「社会的な知性」
講師 東京大学大学院教授 秋田 喜代美氏
- ⑤ 参加者 県内外教員、学生、学部教員、県・市町村教育委員会指導主事、教育長、等
校園全体で、約1,000人

3. 地域教育委員会との連携を図った教員研修への協力、研究成果の普及

(1) 教員の指導力向上を目指す市教育委員会への協力

長岡市内の現職教員の研修を目的とした「教員サポート連成塾事業（教育学部と長岡市教育委員会との協定による）」に研修校として協力した。（技術・家庭、美術、保健体育、道徳）

(2) 小中一貫教育研究推進地域への情報提供

小中一貫教育研究を推進する十日町市・湯沢町の各教育委員会に対して情報発信することで、学校行事における一貫教育カリキュラムについて、教育長、課長等の視察に結びつけることができた。

8 外部資金

8.1 科学研究費補助金

教育学部は、外部資金を導入して研究の活性化を図るため、科学研究費補助金に積極的に申請を行っている。

現在、科学研究費補助金の助成を受けている研究分野は、教育科学を始めとして、人文・社会科学、自然科学、体育学、芸術学など多岐にわたり、様々な研究分野を専門とする教員が所属している本学部の特徴を示している。

一方、本学部所属の技術職員も積極的に「奨励研究」への申請を行っており、今年度は2件が採択された。平成22年度における科学研究費補助金の採択状況（継続分を含む）は下表のとおりである。

研究種目	研究代表者氏名	研究課題名	平成22年度 交付額（円）
基盤研究（B）	麓 慎 一	19世紀後半における露清関係の変容と日本の北東アジア政策	2,100,000
基盤研究（C）	高 木 幸 子	教員養成カリキュラム開発のための授業力育成に関する基礎研究	200,000
基盤研究（C）	福 原 晴 夫	砂丘湖の富栄養化に及ぼす周辺農業の影響の解明と生態系保全対策	600,000
基盤研究（C）	松 井 賢 二	大学生のキャリア発達に応じたキャリア形成支援プログラムの開発研究	500,000
基盤研究（C）	児 玉 康 弘	地方の課題を歴史的に考察させるための郷土人物教育内容開発研究	900,000
基盤研究（C）	篠 田 邦 彦	高齢者の歩行能力を指標とした転倒予測マーカーの開発	900,000
基盤研究（C）	高 橋 桂 子	出産前後の女性の就業選択行動の分析：「やりがい感」を中心に	1,000,000
基盤研究（C）	上 石 圭 一	法曹人口論のポリティックの歴史社会学的研究	700,000
基盤研究（C）	神 村 栄 一	パチンコ遊技への病的な嗜癖を示す成人に対する集団認知行動療法の効果検討	700,000
基盤研究（C）	八 塚 友 広	テキスト学的視点による往来物の変容過程に関する研究	600,000
基盤研究（C）	長 澤 正 樹	広汎性発達障害者のソーシャルスキル認識の解明と自己評価プログラムの開発	500,000
基盤研究（C）	長谷川 敬 三	コンパクトおよび非コンパクト等質空間上の複素構造についての研究	500,000
基盤研究（C）	鈴 木 賢 治	結晶弾性異方性と微視的残留応力に関する研究	500,000
基盤研究（C）	中 村 和 吉	水中における基質表面への洗剤分子吸着挙動	3,000,000
基盤研究（C）	佐 藤 亮 一	レーダポーラリメトリによる地震被災住宅の高精度識別手法の開発およびその活用	1,700,000
基盤研究（C）	世取山 洋 介	日米における新自由主義教育改革の教育的および教育制度論的研究	1,100,000
基盤研究（C）	藤 村 正 司	大学の社会貢献事業の持続可能性に関する社会学的研究	1,300,000
基盤研究（C）	伊 藤 克 美	厳密くりこみ群によるゲージ論の研究	1,100,000
若手研究（B）	石 垣 健 二	「他者との身体的地盤を生成する体育」の理論的根拠に関する研究	400,000
若手研究（B）	足 立 幸 子	知識基盤社会における読書力を評価するミクロ・レベル・テスト及び質的分析手法の開発	900,000
若手研究（B）	渡 邊 道 之	非線形偏微分方程式の未知係数同定逆問題の再構成理論について	500,000
若手研究（B）	山 口 智 子	食料自給率向上につなげる米粉と地域特産野菜を活用した高機能性食品に関する研究	1,100,000
若手研究（B）	興 治 文 子	いつでも、どこでも、誰もが参加できるユビキタスラーニングを活用した理科教育の構築	900,000
若手研究（B）	小 野 映 介	埋蔵文化財情報を利用した高精度の地形発達史研究	1,000,000
若手研究（B）	角 谷 聰	宋代詩文中の「三国志物語」を手がかりとした『三国志演義』形成過程の研究	500,000
若手研究（B）	小 堀 彩 子	感情制御研究の実験枠組みを用いたバーンアウト（燃え尽症候群）メカニズムの解明	500,000
若手研究（B）	和 田 信 哉	探究的な算数・数学の授業における推測の段階に関する研究	500,000
若手研究（B）	工 藤 起 来	アシナガバチ亜科におけるサテライト巣建設の進化	1,300,000
若手研究（B）	杉 澤 武 俊	テストデータへの階層的線形モデルの適用	800,000
奨励研究	佐 藤 雄 二	汎用デジタルカメラを利用したワイヤレス顕微鏡画像投影システムの開発	430,000
奨励研究	高 橋 洋 子	調理が子どもの精神的発達に果たす役割—自己効力感の形成をモデル化する試み—	500,000

8.2 奨学寄附金

奨学寄附金は、個人篤志家や民間企業など各方面から寄附金を受け入れて、学術研究や教育の充実・発展、学生の奨学支援などに活用し、人材養成や地域貢献するなどして、社会に還元奉仕するものである。

平成22年度における奨学寄附金の受入状況は下表のとおりである。

研究代表者	寄 付 者	目 的	寄附金額
佐藤 亮一	財団法人 テレコムエンジニアリングセンター	教育 学術研究助成のため「マイクロ波リモートセンシングによる湿地帯水域観測のための偏波散乱測定に関する調査研究」	1,000千円
鎌田 正喜	財団法人 内田エネルギー科学振興財団	『光エネルギーを利用する新規抗マラリア活性化合物の合成研究：フリーラジカル発生型1,2ジオキソラン類の合成』に係る助成	300千円
鎌田 正喜	鎌田 正喜	卒業研究支援のため	200千円
伊野 義博	新潟大学教育学部芸能学科音楽科同窓会	教育学部音楽科の学生教育に必要な資料等購入の助成	310千円

8.3 受託研究・受託事業

本学部の教員が、地方公共団体・民間等外部の機関からの委託を受けて行う研究及び事業である。

○受託研究

研究担当者	委 託 者	研 究 題 目	受託金額
牛山 幸彦	(財) 日本卓球協会	卓球競技の戦術における科学的分析	550千円
鈴木 賢治	(株) インテリジェント・コスモス研究機構	平成22年度高経年化対策強化基盤整備事業経年劣化事象の解明等)	5,062千円
山口 智子	新潟市	米粉高付加価値化商品開発事業	1,300千円
横山 知行	新潟県	教職員における精神的不調による病休等取得者の職場復帰支援に関する研究	1,770千円
山口 智子	新潟薬科大学	8 大学連携事業 (地産地消推進のための調査研究及び実証業務)	450千円
高木 幸子	新潟医療福祉大学	8 大学連携事業 (食育指導教材・プログラム開発業務)	292千円
高清水 康博	(独) 農業環境技術研究所	(湿原流域の変容の監視手法の確立と生態系修復のための調和的管理手法の開発	506千円
松井 賢二	新潟県立教育センター	「新潟県キャリア教育パイロット事業」に関する調査研究	200千円

○受託事業

事業担当者	委 託 者	事 業 題 目	受託金額
興治 文子	(独) 科学技術振興機構	平成22年度理数系教員養成拠点構築事業	11,000千円
森下 修次	佐渡市	佐渡市着地型ツーリズム整備事業	540千円

8.4 共同研究

本学部の教員が、地方公共団体・民間等外部の機関と共同で行う研究である。

研究担当者	共同研究相手方	研究題目	受入金額
鈴木 賢治	(財) 電力中央研究所	表面加工材の応力測定に関する研究	2,585千円
大庭 昌昭	丸善建材	新型パドル装着によるストローク動作に与える影響に関する検討	385千円

(巻末資料)

平成22年度 新潟大学教育学部入学状況

区 分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
学校教員養成課程	学校教育コース	学校教育学専修	45	223	213	52	46
		教育心理学専修					
		幼児教育専修					
		特別支援教育専修					
	教科教育コース	国語教育専修	135	606	561	159	147
		社会科教育専修					
		英語教育専修					
		数学教育専修					
		理科教育専修					
		家庭科教育専修					
		技術科教育専修					
		音楽教育専修					
		美術教育専修					
保健体育専修							
推薦入学	40	81	81	40	40		
小計	220	910	855	251	233		
学習社会ネットワーク課程 学習社会ネットワークコース		45	349	232	48	45	
生活科学課程 生活科学コース		15	98	95	※24	※13	
健康スポーツ科学課程 ヘルスプロモーションコース		30	205	166	34	33	
ヘルスプロモーションコース		(10)					
スポーツ科学コース		(20)					
芸術環境創造課程	音楽表現コース	25	70	69	28	27	
	造形表現コース	20	87	64	22	20	
	書表現コース	15	53	52	16	16	
	小計	60	210	185	66	63	
合計		370	1,772	1,533	423	387	

- ・他に帰国子女入学者1名（国語）
- ・※は追加合格者3名及び追加入学者1名を含む。

平成22年度 新潟大学大学院教育学研究科受験・合格・入学者数

専攻	分野・専修	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
学校教育	学校教育学分野	10人	4	4	2	1
	教育心理学分野		1	1	1	1
	臨床心理学分野		15	15	10	4
	特別支援教育分野		(1)5	(1)5	(1)5	(1)5
	幼児教育分野		(1)1	(1)1	(1)1	(1)1
	教育実践開発コース	10人	4	4	4	4
	小計	20人	(2)30	(2)30	(2)23	(2)16
教科教育	国語教育専修	32人	(1)8	(1)8	(1)8	(1)8
	社会科教育専修		(1)4	(1)4	(1)4	(1)4
	英語教育専修		8	7	6	5
	数学教育専修		5	5	5	4
	理科教育専修		(1)7	(1)7	(1)6	(1)6
	音楽教育専修		(1)6	(1)6	(1)5	(1)5
	美術教育専修		(1)14	(1)14	(1)10	(1)9
	保健体育専修		8	8	7	7
	小計		32人	(5)60	(5)59	(5)51
合計	52人	(7)90	(7)89	(7)74	(7)64	

※()内数字は、外国人留学生で内数

平成23年3月卒業（修了）者の就職内定状況

(1) 教育人間科学部

平成23年3月31日現在

	卒業者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)					
				公務員	企業等	計	公務員	企業等	計	公務員	企業等	計			
学校教育課程	197	20	20	15	111	31	157	15	99	26	140	100.0	89.2	83.9	89.2
学習社会ネットワーク課程	61	6	7	3	3	42	48	3	3	40	46	100.0	95.2	95.2	95.8
生活環境科学課程	45	5	6	3	8	23	34	3	7	20	30	100.0	87.5	87.0	88.2
健康スポーツ科学課程	27	10	1	2	7	7	16	2	6	7	15	100.0	85.7	100.0	93.8
芸術環境創造課程	63	13	11	1	5	33	39	1	4	31	36	100.0	80.0	93.9	92.3
計	393	54	45	24	134	136	294	24	119	124	267	100.0	88.8	91.2	90.8

注) 平成22年9月卒業者を含む

(2) 大学院教育学研究科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)					
				公務員	企業等	計	公務員	企業等	計	公務員	企業等	計			
学校教育専攻	15	1	0	2	8	4	14	2	8	2	12	100.0	100.0	50.0	85.7
教科教育専攻	29	1	3	3	17	5	25	3	17	5	25	100.0	100.0	100.0	100.0
計	44	2	3	5	25	9	39	5	25	7	37	100.0	100.0	77.8	94.9

(3) 養護教諭特別別科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)					
				公務員	企業等	計	公務員	企業等	計	公務員	企業等	計			
養護教諭特別別科	44	1	3	8	19	13	40	7	19	12	38	87.5	100.0	92.3	95.0

教育学部附属学校生徒数

22. 5. 1現在

校 園 名		学級数	1学級定員	収容定員	現員
幼稚園	3年保育	3	35	90	71
新潟小学校		12	40	480	476
	複式学級	3	16	48	48
長岡小学校		12	40	480	401
新潟中学校		9	40	360	359
長岡中学校		9	40	360	359
特別支援学校	小学部 (複式学級)	3	6	18	18
	中学部	3	6	18	18
	高等部	3	8	24	30
合 計		57		1,878	1,780

新潟大学教育学部